

## 平成27年度第2回新温泉町総合教育会議議事録

1 日 時 平成27年11月12日（木）午後1時28分～4時30分

2 場 所 浜坂多目的集会施設 会議室

3 出席者

（構成員）岡本町長、田中教育委員長、北村教育委員長職務代行者

中井教育委員、小南教育委員、岡本教育長

（事務局）西村こども教育課長、清水生涯教育課長

宇野こども教育課課長補佐兼教育総務係長

4 会議録署名人

岡本町長、田中教育委員長

5 協議・調整事項

（1）町立認定こども園改築について

（2）「新温泉町地方創生総合戦略」について

（3）その他

\*\*\*\*\*

開会 午後1時28分

\*\*\*\*\*

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 それでは、皆さん、こんにちは。定刻には若干早いですが、おそろいですので、ただいまから平成27年度の第2回新温泉町総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

まず初めに、主宰者であります岡本町長より御挨拶をいたします。よろしくお願いいたします。

○岡本町長 委員の皆さん、大変御苦勞さんでございませう。本当に朝夕めっきり寒くなりました。いよいよ秋も深まって、伴いまして山の紅葉も非常にきれいな時期を迎えました。委員の皆さんには、教育会議の御案内をさせていただきましたところ、御多用の中をこうしておそろいで御出席をいただきました。厚くお礼を申し上げます。申すまでもないことではありますが、この総合教育会議、せんだっての地教行法の改正によりまして、首長のほうが招集するというふうなことになりました。新たに設置された会議でもございませう。去る5月の29日に第1回の会議を開催させていた

だき、要綱の制定であったり、さらにまた教育振興計画をもって町の教育大綱にする  
ということを決定させていただきました。改めて皆さん方に感謝を申し上げたいとい  
うふうに思っておるところでございますし、この総合教育会議を通じまして皆さん方  
の日々の活動であったり教育に寄せる熱い思いであったり、そんなことを聞かせてい  
ただきました。改めて皆さん方の日々の活動に対しましてお礼を申し上げたいとい  
うふうに思っておるところであります。

きょうは二、三の案件を皆さんにお諮りするとともに、それぞれこれからの町の教  
育につきましているろんな御意見をいただきながら、相互の調整・協議を今後とも図っ  
てまいりたいというふうに思っておるところであります。どうぞよろしくお願い申し  
上げまして、冒頭一言御挨拶をさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。  
御苦労さまです。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 それでは、田中委員長よりご挨拶をお願  
いいたしたいと思えます。

○田中教育委員長 失礼します。今の町長の挨拶をお聞きしながら、バックミュージ  
ックの入った挨拶っていうのもまた粋なもんだなと思えながら、後ろに聞こえてるん  
ですけども。それで、いつも私は情報を得る場所が狭くて困るんですけども、しかし、  
けさもまだ言っていました、きのうからありました小学校6年生が大麻をという、と  
てつもない思いで聞いておりましたが、まだ解明はされてないというものの、大麻は  
こうして吸って、こうすればこんなことが起きるだろうというのをインターネットで  
知ってましたみたいなことの報道がなされていまして。ただ、そんな中で、最近学校  
現場におきましては、本町が特別そうだというわけではございませんけども、現在の  
ところ家庭、地域を大いに巻き込んだ、本当に多様化したといえますか、複雑化した、  
そういうふうな課題が学校現場で起こるといのが、うちの町でも多少なりともある  
という事実がございます。本来、学校教育っていうのは、それぞれの教職員の資質を  
基本にして、分掌と呼ばれる分担でそれぞれ役割分担をしまして、学校長のもとでそ  
れぞれの解決がなされていくと。必要があれば家庭にも教育を願うというふうな基本  
で来た教育が、今や非常に複雑、多岐になったことによりまして、今叫ばれておるの  
はチームという言葉がありますが、「チーム学校」。どんなチームなんやということ  
ですけども、今、学校訪問しても、とにかく校長のリーダーシップのもとにチームを  
組んで対応していくようにというふうなことが指導の主力になってきています。そん

なことの中から、本日のこの会議につきましても、ある一面で言いますとチーム新温泉町学校なのかなんて思いがします。町長さんを初め、私たちは新温泉町の教育を一つのチームとして、さまざまな角度から捉えてその課題解決に向かうというふうな、そんなふうな私、何か思いがしてなりません。町長様の挨拶にもありましたけども、だからこそチームという言葉の裏には何があるかということ、それぞれの立ち位置から違った視点で教育を眺めて子供たちの健やかな成長、すなわち人づくりへ向けて知恵を、また技を出していくというふうな会議であればよいのかなというような思いがします。限られた時間ではありますけども、我々は住民の代表であるというふうなところも根底にしながら、まちづくり、人づくりのために知恵を出し合えたらなと思っております。どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

○宇野こども教育課長補佐兼教育総務係長 ありがとうございます。

○岡本町長 ありがとうございます。この後の進行につきましては、私のほうからさせていただきたいと思えます。

早速ではありますけれども、協議事項のほうに移らせていただきます。協議事項の1番目でございます町立認定こども園の改築についてをお諮りして、皆さんの御意見をお聞きしたいというふうに思っております。事務局より提案を含めて御説明を申し上げます。

○西村こども教育課長 それでは、町立認定こども園の改築についてということで本日の資料1、1ページをお願いいたします。まず概要ということで、少し背景的なことになるわけですが、現在、新温泉町におきましては、28年度の末までに公共施設等総合管理計画の策定ということで、高度成長、昭和50年ぐらいから公共施設がたくさん整備をされて40年ぐらいの経過になるというふうなことで、それぞれの施設が老朽化してメンテナンス費用もたくさんかかっているというふうなことで、それらの運営管理費用であるとか今後の維持等について、この27年、28年度をかねまして総務課のほうでこの管理計画を策定して、公共施設の効率的、効果的なあり方や建てかえ、統合等を現在検討しているというふうな状況です。教育委員会におきましても、認定こども園、小中の学校園の、また体育館の6割以上が20年以上を経過しているというふうなことで、施設の長寿命化であったり今後の整備等について、32年度までに施設計画を立てていくというふうなことになっております。

そのような中で浜坂地域の認定こども園におきましては、大庭が昭和49年、浜坂

認定こども園が53年ということで、浜坂におきましては37年ということで、かなり学校訪問、園訪問等で見えていただいたとおりでございますけども、老朽化が進んでいる状況であります。特に浜坂のこども園におきましては、海拔が3.1というふうなことで、兵庫県が平成12年に公表しました日本海沖地震を想定した津波高1.75をクリアはしておるんですが、東日本大震災を受けてその公表した予想津波3.4を下回る結果となっております。このような中で、津波対策というふうなことで園児の安全性を考えた園舎のかさ上げ、建てかえ、また移転等を喫緊の問題として検討をしていかなければならないというふうな状況になっております。ということで、対象施設ということで浜坂認定こども園、改築の予定時期につきましては、今年度、財政計画のローリングをして30年度ということで計画に当てております。それから、30年度に向けまして今後の方向性ということで、この総合教育会議、それから教育委員会と協議を図った上で、教育委員、有識者、こども園職員、保護者等で構成する、仮称ではございますが、認定こども園改築検討委員会を来年度には立ち上げ、改築に向けて協議検討を重ねていくというふうなことで考えておるところでございます。

次のページをお願いいたします。認定こども園の基本情報ということで、浜坂、大庭、ゆめっこ、3園の状況を表にまとめさせていただいております。建築年度につきましては、先ほど御説明いたしました。浜坂、大庭については鉄筋コンクリートづくり、ゆめっこについては木造というふうなことであります。延べ床面積、敷地面積等につきましては記載のとおりであります。それから海拔につきましては、先ほども説明しましたが、浜坂が3.1、大庭が7.1、それからゆめっこが82メートルというふうな状況でございます。以下、保育室であったり駐車場の可能台数、それから園の定員、それから園児数等、記載をさせていただいております。それから、その下のほうといたしまして、参考ということで、ゆめっこ認定こども園については平成17年の4月に建築をしておりますので、その総額等を記載しております。ゆめっこの建築費の総額が9億480万1,000円ということで、これの内訳といたしまして、ちょっと見ていただきまして、あそこの場合は造成工事費ということで2億7,600万というふうなものがかかっておるところであります。それから、本工事費については5億1,700万というふうなことで、そのような金額になっております。それから、附帯工事の期間というふうなことで平成16年7月から17年2月、本工事につきましては、その上のほうで16年1月から17年の2月というふうなことが各園

の基本情報というふうなことになっております。

それから、やはり今少子化が大変進んでおりますので、建てかえに当たってはやはり今後の児童数の予測推移というものが非常に、今後の建てる上で考えなければならぬというふうなことで、そこに表をつくっております。まず人口ということで、これでいきますと27年が1万5,612人というふうな数字で、32年には1万3,991人というふうなことであります。それから、就学前児童については、27年が582人から32年には452人というふうな推移になっております。それから、その下の定員につきましては、浜坂認定、大庭認定の定員、浜坂が200人、大庭認定が130人ということで、それも認定1歳児から5歳児、それから教育認定についても細かい明細をつけております。それから、その下につきましては、入園児童数ということで、上の定員に対しまして27年の実績をもとにそれを推計ということで今後の園児数を出しております。浜坂認定が現在129人ありますが、平成32年には90、39人のマイナス。大庭認定が現在70人のところ59人ということで11人のマイナス。合計をしますと50人減少していくというふうな推移になっておるところであります。

じゃあ、次のページをお願いいたします。これは新温泉町内の推計児童数ということで、ゼロ歳から5歳まで、27年から32年までの数字を上げております。ゼロ歳、27年が87人ということでありますが、32年には62人まで減少するというふうなことで、この議案の後に地方創生の戦略のほうも説明させていただきますけども、その総合戦略のほうでは5年先の、推計では今言いました62人になるんですが、目標としては86人を目標にしているというふうなことをちょっとつけ加えさせていただきたいと思っております。それから、その下に新温泉町内の中の内訳ということで、浜坂認定と大庭認定の推計児童数ということで27年から32年までの数字、浜坂でありましたら230人が平成32年で155人、それから大庭認定114人が89人というふうなことで、推移といたしましては減少がどんどん進んでいくというふうな状況になっておるところでございます。

それから、次のページには浜坂認定こども園の平面図をつけさせていただいております。

それと、次のページに改築計画のスケジュール（案）ということで、28年度から30年度までのスケジュールを項目ごとにつけさせていただいております。28年度

につきましては、まず候補地の選定、それから、7月の頭には改築検討委員会の立ち上げ、それから基本計画を10月から、それから基本設計を29年度、それから実施設計を29年度の9月、それから工事の監理については30年度4月から、本工事については30年度7月からというふうなことで、現在このようなスケジュールの案を立てさせていただいているところでございます。

以上、町立認定こども園の改築について概要を説明させていただきました。よろしくお願いたします。

○岡本町長 今、事務局から報告があったんですが、基本は3.11の東日本の津波がちょうど4年8カ月ぐらい前になるんですけども、本当にあんなことになるということは誰も思ってなかったんで、突如としてああいうようになりました。こちらも山元町の町長が見えられて話をされていたんですが、海岸部に小学校があってもろにやられたんですけども、たまたま判断がよくって屋上に小さい物置小屋があって、そこに、私も行ったときに現場を見させてもらったです。そこに全校生徒を60人ぐらいだったかな、避難させたと。結果的にはもう1人も事故もないし、結果的に助かったんですけども、本当にあれは危機一髪というか、もう本当に大変な惨状でした、あの直後を見させてもらいまして。それで、一瞬の判断で生死を分けるというのはこのことだなというふうに思いましたけども、そういう誰も予想しない災害っていうのは必ずあるものというふうにもこれは思っとなあかんわけです。それで、3.11以後に南海トラフや東海の関係で太平洋側の地震津波の関係については、かなりの精度で予測というか、こんなもんが来るだろうということが非常に短期間ではっきりさせたんですが、残念ながら日本海のほうは、特に兵庫県は遅々として進んでいなくて、鳥取県とそれから福井県のデータを参考にしながら、町としては隣の町の岩美町の地震津波を参考にして一応5メートルということを設定したわけです。ところが兵庫県は、いやいや1.7メートルでいいと、それで大丈夫だと思うと。はっきりしたことは今調査しているから、暫定値だけど1.7でいいというような結論を出してきたんです、実は。ところが間髪を入れずに二、三カ月たった去年の8月だったかな、国のほうから、いや、そうじゃないと、3.7が来ると、新温泉はというようなことが出たわけでした、それであそこの位置が、ここにも書いてありますけども、3.1メートルでして、何よりもこれが、せめて高等学校とか、せめてという言い方はおかしいんだけど、速やかにばあっと走っていくとか、そういう子ならいいのですけれど

も、国のほうで3.4メートルが来るでということを行うのにこっち側がそれを放置するなんてことはこれちょっとあり得ん話で、何とかこれを早いうちに安全なところにと、一番避難するについて弱い子供たちのところですので、そういう思いが一番でして、これいろいろ前段で書いてありますけど、これは町全体の公共施設の話で、特に一番災害に弱い子供たちに、できるだけ早いうちに安全なところにとというのが本意であります。園舎の改築年度は大庭のほうが古いのは古いんですけど、優先順位としてはまず浜坂を何とかせなあかんというのが今の気持ちですから、きょうここにまた皆さんでいろいろと状況を突き合わせて検討していただきたいと思っているんですけども、基本あの位置に改築という形で建てる気持ちは私にはございませんので、できたらここだったら大丈夫だということに用地を求めて移転させたい、移転・新築ということでやる、そんな思いを持っておりますけれども。ただ、今の私の思いでありまして、いろんな視点の中で教育委員さんの、基本これがいいだろうということの結論というのは大事にしていきたいと思っております。

○田中教育委員長 今、事務局の説明もありましたけど、町長さんが今おっしゃった安全、生命というんだったら基本的には当然移転して新築すべきだと私は思いますね。なおさら、事務局の説明もあつた人口推移のことも考えて、その辺で少しぐっと、まず第1点の場所をとにかく変えて安全な場所であるということは、もうこれは必須条件だというふうに捉えたら私はいんじゃないかなと思うので、そのことはぜひそのように願いたい。できるだけ時期のことも提示されてましたけども、早い時期でいいんじゃないかなと。まず第1点としては、移転することについては私は賛成です、基本的に。

○岡本町長 時期ということもできるだけ早いうちがいいんですけども、今のどこの地方自治体もそうなんですけど、補助金もらったりしながらできるだけ経費がかからないような形でやる。それからまた、起債を受けて、できるだけ起債の借金と返済のバランスを見ながら財政計画をつくってやっていくというのが今の自治体の財政の運営なんですけど、そういうことを考えますとこの30年というのがどうしても前倒しがなかなかしにくいというのが実態でありまして、ただ30年には絶対するぞということで中期の財政計画に入れ込んでしておりますので、30年にはやるということで、これもそういうふうに前倒しが難しい中で30年がリミットだと。それで、そこには必ずやるという思いでおりますので、その点も御理解いただきたいなというふうに思

っとるんです。

○西村こども教育課長 町長のほうから財源の話が出て、起債という話が出たんですけど、補助金につきましては基本的には現在の制度は私立のこども園の場合は補助があるんですけども、公立の場合には一律的に出るわけじゃないということなんですけども、浜坂認定こども園は幼稚園と保育所が2つが一緒になって認定こども園になっておりまして、幼稚園から成っているという部分につきましては補助があるということで、補助といたしましては3分の1補助というふうなことで、裏に起債を充てていくというふうな財源で考えているというところです。

○岡本町長 土地買収費用だとかはない。

○西村こども教育課長 それはないです、造成とか用地買収については補助金はないということです。

○岡本町長 幼稚園部分と保育園部分、それでこの幼稚園部分についての建物の比率でしような、その3分の1と、についてはあるみたいですよ。おかしなもんで民間にはあるのに公立にはないんですわ、その保育園というのは。

○中井委員 つまり床面積か何かで割り振りするわけですか。

○岡本町長 割り振りすると思いますよ、ようわからんですけど。

○中井委員 幼稚園部分と。

○西村こども教育課長 今、認定こども園で1号認定から3号認定まであるんですけど、それをもとにして案分というか。

○中井委員 園児っていうか使う場所っていうことですか。

○岡本町長 人数。

○西村こども教育課長 人数で。

○岡本町長 人数。

○西村こども教育課長 割合を。

○岡本町長 この教育認定というのが出るわけか。この教育認定の子どもの割合で。

○西村こども教育課長 ああ、そうですね。教育。

○岡本町長 それで保育認定のほうが、例えば70%だったら残りの教育認定の30%の比率で出ると。

○西村こども教育課長 そうですね、比率で案分してということになります。

○北村教育委員長職務代行者 例えば概算、まあ今出ているのはゆめっこが9億とい



うふうなことしか出ていないんですけど。

○岡本町長 いや、9億っていったらとんでもない金ですよ。

○北村教育委員長職務代行者 だから、これを出してあるってことはそれに見合うようなものでも考えておかなあかん。

○岡本町長 財政計画で9億ってとんでもないですわ、とても。

○西村子ども教育課長 ゆめっこの場合は造成工事費が結構な額に。

○北村教育委員長職務代行者 2億7,000万。

○西村子ども教育課長 そうなってるんですが、これが大きいのかなと思いますけど。

○岡本町長 多分5億円ぐらいか、四、五億ぐらいなものと違うかとな。

○北村教育委員長職務代行者 それは総額ですよ。ということは、今おっしゃっておられるのは上物に対しての3分の1補助があるということになってきますので、そういうことをお聞きすれば…。

○岡本町長 上物の、保育部門が7だったら3でしょう。その3の3分の1ですから。

○北村教育委員長職務代行者 その3分の1ですよ、結果的にはね。

○岡本町長 それはわずかなもんだと思いますわ。

○北村教育委員長職務代行者 非常に何か前途の暗い話になる。

○岡本町長 前途の暗い話。金については。

○北村教育委員長職務代行者 はい。金についてはね。

○中井委員 土地の取得費用は対象外となればね。

○北村教育委員長職務代行者 ええ、それが町有地でがっばり使えばね、それは全然問題ないかと思いますが。それでも造成はしなくちゃいけませんし。夢のないものをつくっても仕方がないだろうし。

まずはお聞きしたいのは、こういうふうには人口減といいますか、推移の表をつけておられるということは、将来的には大庭のほうには着手しないということ、先に浜坂のほうをとというような説明だったんですけども、将来的には例えば新しくできたものに大庭を付随していくというふうな考えも含まれているというふうには考えさせてもらっていいんでしょうか。

○岡本町長 保育なり教育なりをどういうふうに捉えて、どういうふうなこういう減少社会の中で考えていくか、どれが教育効果が高いのか、どうすれば、これも比較相

対論になると思うですけど、どういうふうにしたほうがいいかというのは、皆さんが最終的には判断していただいたらというふうに私自身は思っております。ただ、自分の思いとしては保育園というのはできるだけ地域に、何というか、非常に密接なかかわり合いのある中でできるだけ地域に残していきたいという思いが正直言ってございます。ですから少なくなったから直ちに1つにするとか、そういうことは私は考えたくはないんです。最終的にやむを得んという局面になって初めて、何ていうか、保護者の皆さんなり地域の皆さん、そういう中のほぼほぼの思いが正直、この際1つにしようやというところまでやっぱり地域に置いておきたいと。それが保育園、こども園だというふうには思っているんですけど。そういう将来のことを視野に入れて、そういう局面でも対応できるキャパを持った、そういうものにはしていきたいというふうに思っております。ですから位置の選定であったり、それから大きさも含めてグラウンドも含めて、実はきのう風邪引いた話していたんですけど、神戸を歩いておましてひょいっと見たらビルの看板に何とか保育園ってあったですわ、小さなビルの。それも保育園ですわな。だけど、何というか、町にとっては民間に投げたら楽ですし、それが普通ですけど、逆に言えば。だけど、うちはやっぱり保育なり教育なりというのは今の時代やっぱり基本、公がやっぱり提案していくもんでなければならん。狭いところで保育さしとるみたいなことは。僕らでは信じられんようなことでね、だから金がかかっても、例えば1億ようけ積まなあかんとしても、やっぱり新温泉の保育園といたらやっぱりそれなりのものだと言えるようなもんは建てたいなというふうには思っているんですけど。

○田中教育委員長　それで、話があれこれ飛んでもいいような感じで発言させてもらうんですが、実は1つ検証できるものが新温泉にもあると思うんです。というのは、ゆめっこの問題です。地域の中には多少違和感持った方の意見もありまして、ちっちゃい子供のときに全部ゆめっこへ集まって、そこで保育なり教育をやって、しかし小学校になると、じゃあ、さよならねって別れていくって。中学になったらまた1つの学校へ行くことになる。こういう流れが地域活性とか地域の人づくりにとってどうなのかなという意見もあるんです。いいとか悪いとかいうことはあまり論じずに。そういうふうなことが子育てとしてどうなのか。ややもすると子育てはできるだけ、今、町長もおっしゃったみたいに地域に立脚してふるさと教育のことも、この後まだ地域創生のことと絡んでくるんですけどね、そんな中でこの地域の中で人としての生き

方やそんなものの基礎を学ぶものをつくって行って、我が町で育ったことを誇りにして生きていく人間をつくりたいというふうな夢があるとしたら、方策として今の幼稚園の一つの事例から学ぶこともあってもいいと思う。そういう意味合いでいうと、夢だけ言うと、個人的で悪いですが、今、北村委員が言われたみたいに、そうはいつたって人数のこともあるから、浜坂だけで考えずに将来のことも考えると。私はもっと言うと新温泉で基本のゆめっこってというのは、実はそこだけが単独でこれからつくっていくんじゃなくて、単純に言うとすぐ近くに中学校がありますよとか、中学生が絶えず交流できますよとか、お年寄りの施設や就学施設はもっと絶えず交流できますよとか、最低限子育てが役場のところにあるよりもそこへあったほうがいいんじゃないかというふうな発想とか、そんなふうに総合的に教育っていいですか、子育てができるような、できれば夢ですけども、まだ膨大な土地がむしろ欲しいし、2階なんていうのは要らない、平屋でいいし。というふうな、そこがいろんな集いの場になったりや、集まりや交流の場に十分なり得るといふことなんです。そして、そこから子供が育っていくというふうになると思います。だから人数的に基本的には、例えば大庭地区には大庭、それは浜坂地区には浜坂ということが理想だとは思いますが、そのことも当然ながら頭にはあるが、しかしというところでね、可能な限り私は交流、人づくりの拠点ができるようなことを夢見ることから始まっていいんじゃないか、現実には厳しいでしょうけど。というふうな思いがします。

○岡本教育長 ゆめっこの話で、そのゆめっこができたときに、私も町長と一緒にやっぱり身近な年寄りが手を引いて送っていける、また迎えに行けるぐらいなところにあるのが一番理想的だと。そうはいっておれんということもあって、例えば今の場合だったら浜坂はやっぱり浜坂ということを実原則にしてという考え方についてはそうあるべきだと、今の現状ではね、思っています。今、委員長が言われたみたいに、それも私も同感です。山の上のほうを切って小さい子供たちがそこで過ごすというのは、先ほどのあれからいけば理想の形じゃない、あくまでですよ。町長の頭の中でどういうイメージがどうなのか、現実的な問題っていうのがあって、そこらのところが今後の検討として出てくる。

○岡本町長 町長の思いというのにはありますけども、むしろ委員さんらのどういふところに保育園をつくったほうがいいのかっていう判断は、それはいろんな条件によって可能であるのかどうかというところはこれは変わってきますけど、こういうところ

にこども園はつくったほうがいいなど。例えば安全性であったり、それから今、委員長が言われた交流であったり、そういうことはまさに教育的な視点ですので、教育委員さん方がこのところは条件としてはええということはどうも言うていただけたらと思っとるんです。やっぱりこども園というのはある程度、人がああ子供らがもう元気に遊んどるがなというぐらいなところにやっぱりできたらつくってほしいな、そこで安全性も同時に近隣住民の皆さんと一緒に確保されるとか、そういうところが基本、何というか、いいじゃないかなというような思いは持っております、常に。ただ、そこになると土地代が高いとか、いろんなギャップ面があるですけども、ですけどそれは最終的には金が解決できることだったら、多分用地買収費も起債対象になるでしょうし、ちょっと過疎債なり合併特例債を借りさえすれば、実費の単費分は圧縮されるし、何とでもなるじゃないかなと思うんですけども。だから、財政のことも考えていただきたいけども、ゆめっこに9億、10億出してつくることを思ったらそのぐらいのことはたやすいことだと、逆に言えば。というふうに思っております。えいやでやってもいいと思う。

○北村教育委員長職務代行者 ちょうど小学校の再編のときに立ち合わせていただいて、それで先人のというか、先人も気がつかなかったかもしれせんけども、計画のなさによって子供たちに影響がかなりのね、部屋のことだとか詰め込みだとか、いろんなことを保護者のほうにもいろんな迷惑がかかってきた。それから、認定こども園になるときにでも同じような状態が起きてしまった、浜坂認定につきましては保育園と一緒にきて、それによっていろいろとトラブルもありましたし、そういうところ、それからその場所についても、出てしまった後の場所ですね、それも再利用もできてない、結果的には町の荷物になってしまっているといえますか。ですから、ぜひ今度考えるときには、どこまでいっても町の財産として残っていけるようなビジョンがあって、しかるべき将来的な展望も含まれていて、それからさっき委員長が言われたような交流も含められて、環境もよくて、もちろん安全で。ですから、高いところも云々の意見ももちろんありますけども、津波のことを考えれば高台にそういうものがありさえすればそれは町の大きな財産になると思います、浜坂中学校を含めてね。ですから、そういうようなこともいろいろと皆さんが御納得いただけるような内容にさせていただいて、それであと交流というのは絶対に必要だと思うんです。だから、今は三世代全然交流ができなくて、うちの小学校、栃谷にあるんですけども、この間も

ちょっとほかの会議でも言いましたけども、ここ3年ほど1人も小学生がいない。来年やっとなんて入ってくるんで子供会も結果的にはない。老人会という言い方したらいけないんでしょうけども、そういう、昔は老人会、婦人会というものもない。それから青年团的なものもない。全然交流する場所がない。今あるのは獅子、榊ぐらいのところ、それから消防かな、ぐらいがちょこっと交流している程度なので、そこで女の方の交流とか、三世代の交流場所って全くない。せつかく小学校という財産があるのにそれを上手に、例えば公園部分だとか公共の部分だとか学校の部分だとかっていうのを仕分けていただいて有効利用に、三世代が交流できるような仕掛けが何かできないかなというようなことを思いますけど。そうすれば、例えば将来的に浜坂北小学校に小学校が再編されたとしても、南小学校についてはそういうふうな残り方があるといえますか。南小学校の跡に例えば保育園が来ても、結果的にはめちゃくちゃデカ過ぎますので、また管理的な内容も出てきますから、そこら辺のところはきちんと区切られていたら、それなりの使い方もできるんじゃないかなというふうなことも含めて、小さくなるのばかり考えるのも変な話ですけども、それは現実として捉えていただいて、やっぱり夢も希望もあって、なおかつ町の荷物にならないというようなことができたかなというふうに思いますけど。

○田中委員長 ちょっと線路よりも向こうになったら高さはどれくらいになるんですか。

○岡本町長 線路より南側だな。

○岡本教育長 大丈夫だと思う。

○田中委員長 もう南だったら高さはある。

○岡本町長 高さはあると思います。

○田中委員長 ということですね。

○岡本町長 ええ。結局ね、図書館だとか、今のこども園のところが一番いけんところですわ。僕の記憶で船が図書館からずっと向こうの……。

○北村教育委員長職務代行者 台風19号のときでしたかね。

○岡本町長 いつだった……。

○田中委員長 三角の裏のほうまでね。

○岡本町長 うん、三角の裏に。

○北村教育委員長職務代行者 ナカケーなんかも水が入ってきましたから。だから、

あそこが一番低いと思います。

○岡本町長 だから、結局昔の、どう言ったらいいのか、御屋敷が高いですわ、今のね。だから、御屋敷って言っとるんですが、大体。それで下は低かったんで、ずっと、何だったかいな、宇都野町か。

○田中委員長 元堀の近くですか。

○岡本町長 元堀だな。あそこらへんが港だったですわ、大体そもそもから。それで、昔は知ってのとおり岸田川が、二日市の浜坂病院のところが岸田川だったです。ですから、あそこの港から交易品やらを船ですっと対田へね、福富通って対田や栃谷のほうに運びよったんですわ。それで川変えして、それで今の川になっとるですけど、だから昔の地形はかなり違うんですわ、今とは。それで、その線路ができたのがちょうど百二、三年前ですわな、JRは、浜坂駅ができたのが。それまではあそこら辺、何と言いますか原野みたいなもんです。八幡さんがあったぐらいですから。だから、八幡町とか、それから新町とか、駅ができてからできとるですわ、ずっと。形成されとるんです。それで南側といったらつい神社しかなかったですから、ということですよ、昔は。それで浜坂の成り立ちも、百姓家が上六軒のほうです。

○田中委員長 そうです、百姓町だった。

○岡本教育長 何にもなかったもんね、あのあたりは。

○岡本町長 高等学校のときでも、本当に南線から向こうは何にもなかった。

○岡本教育長 何にもなかった。

○北村教育委員長職務代行者 だから、そういう面で見たらむちゃくちゃ発展はしたんですけどね。

○岡本町長 うん、むちゃくちゃ発展…。

○北村教育委員長職務代行者 徐々にもとに戻りつつあるということ。

○岡本町長 本当に。

○北村教育委員長職務代行者 考えればいいんですけども、それは……。

○岡本町長 この庁舎で7、何ぼぐらいでしょう、たしか。8か。8メートルか。それで、1つだけ頼みたいのは防災訓練で、こども園の子らがナカケーさんところに向かって、これはやめて。むしろこっちの御屋敷からこっちに連れてきたほうがいいって。わざわざあそこの一旦低いところに行って、ナカケーさんの2階だか3階に行って避難するというのは、もうこれこそ冒険だから。

○西村こども教育課長 文化会館をしたらどうだというふうに…。

○岡本町長 ああ、そんなんは。

○岡本教育長 そういう話をしていると。

○岡本町長 ああ、そうかそうか、それならいいけど、思い出したので。

○田中委員長 御屋敷で9. 何ぼだったかな。

○岡本町長 いや、そんなもんだと思います。

○田中教育委員長 いや、冗談じゃなくて。そうしたら構想が基本的にじゃあ、どの辺になってなると、線路からね、海側のそんなこっち側に近いほうへなんて話になかなかかなりにくいんだと思う、そしたら線路を一つの基準にすると、じゃあ、山側でものを見ていくのかというような考え方になるわけですが。

○北村教育委員長職務代行者 ハザードマップが大体大きな場所の選定にはなろうかと思うんですけど。

○中井委員 そうですね。

○田中教育委員長 いや、僕はプラスに考えて、そうするとそっちに行けば土地代が安くて広いところがあるなあと勝手なこと言って…。

○岡本町長 いずれにしても、そこら辺の考え方もほぼほぼのこういうところがいいとちがうかというようなことも検討していただきたいと思っております。

○田中委員長 場所はわからん。

○北村教育委員長職務代行者 いや、あとは、また話がぽこんと飛んでしまって大変恐縮なんですけども、この間もちょっと子育ての話だとかいろいろ話の中へちょっと参加させてもらっていて、確かに我が町としても子ども子育てに対してのいろんな補助だとか手当だとか、それから加配の面だとかって、こういう委員会に出させていただいて見させていただくとまず手厚い、そういうのはよくわかるんですけども、その原点になるところの産婦人科もなければ小児科もないというところが非常なネックになっている。だから、そういうような健康な子に対しての手厚さは十分あると思いますし、それから援助面としてはあるんですけども、本当にここは住みやすい町なのか、安心・安全が本当にうたってられるのかということちょっとクエスチョンマークがある。僕らの子供が育ったときには普通にあったんですね。浜坂病院でうちの子も全員産まれましたし、そういうところでも、それが普通に感じていたのが今はそれがだんだんなくなってきて、今の子供たちもう鳥取に行かなくちゃいけない。鳥取もすごく混ん

でいて、民間が、だから公共的なところにはほとんど皆さん行かなくて、時代の流れもあるでしょうけども。本当にだんだんと、それ1日、2日で帰れとは言いませんけども、昔でしたら1週間ぐらいいたのが、調子のいい人は4日ぐらいで帰ってくるとかいうことも。だから本当に産みにくいというか、そういうふうに不安を持っておられるところもあろうかと思えます。だから、そういうところも本当に一つずつクリアにできるっていいですか、やっていけるところは考えていただきたいな。じゃないと、大きな声でさあ来てよ、さあ産んでよって言えるような状況に、保育園ができたからさあ来てよみたいなことを言っても、それはちょっと力が弱いんじゃないかなと思ったりもします。

場所は、わからんです。

○岡本町長　でも、医療関係については、一生懸命新しい参事にも来てもらって頑張っていたけど、何とか来年の4月の1日には、今、小児科の先生を八田診療所に配置しとるんです、非常勤ですけど。八田診療所を2日見てもらっと思えます。その方をもう小児科のほうにかえて、それで豊岡から来ていただいた先生とで合わせて週4日の体制がとれんかなというふうに思っとる。今のところはそれが限界で、それで総合診療ということで内科も含めて、井上先生っていうんですけど、井上先生にはもう内科を含めて、もちろん小児科もですし、本来。診ていただくというふうにしたいと思っておりますし、何とかそこには行けるじゃないかなというふうに思っているわけです。言わんでもわかっていただけと思うんですけど、なかなかお医者さんも難しい時代になっておまして、特にこういう地方の病院というのはなかなか脂の乗り切った先生というのは、特に専門医は難しい状態が続いております。4月1日には一つはそういうふうにすること、何とかメドを立てること。それからもう一つは、診療所の穴埋めをきっちりすること、それから、できたら正規の常勤の先生を置くということで今、力いっぱいそっちのほうも、ひよっとしたらうまいぐあいに行くかもわからんなというふうに思っとるんですけども、現状としてはそういうふうなことがありまして、産科はちょっと手も足も出ません。これは但馬でも、八鹿に産科医が2人でしょうか、それこそ。それで、3市2町で豊岡病院に周産期センターをつくったんですけども、もちろんうちの町も負担金出しとるんですけども、なかなか当初計画どおりに産科医が充足するほど来てくれないというようなことで、八鹿に周産期センターの分室みたいなのをつくる予定にしとったんですけど、結果論におい



ではもうそれも立ち消えせざるを得んというようなところまで来ております。唯一、豊岡だけが何か得したような感じで、そんなことで。ただ、緊急事態の場合はドクターヘリなり、それで対応できる分だけは一応の安全性というか、それは確保できたかなというところで納得せざるを得んというか、どうしても鳥取の医療圏におんぶしていただく以外にないなというふうに思っております。うちはどちらかというとならぬ鳥取が近いからまだいいですけど、香美町やそこら辺は大変でしてな。産科だけはどうにも手の打ちようがない。そういう状況です、残念ながら。

○北村教育委員長職務代行者 現状はわかっているつもりですけども、本当にうちらの子供のときには浜坂にも産科があつて香住にもあつて、香住は産み分けを上手にするみたいなのわさが流れて、浜坂の人も結構大勢香住で出産をされてたつてというような経緯もあつて、一時は浜坂病院にも女の先生もおられて、一時2人、短期間ですけども、いらっしゃつたような時期もあつたような。

○岡本町長 あれを廃止したのは中村町長のときだったな、たしか。合併のもう。

○北村教育委員長職務代行者 大分前。すごい前。

○岡本町長 三、四年ぐらい前だったかなと思うんですけどな。だから、十三、四年か。それぐらい前になるでしょうな。

○北村教育委員長職務代行者 あとは、保育園が休みのときに親子だとか、そういうちょっと遊びに行くような公園みたいなものがないと。というように、公園はあるんですけど、車で行かなくちゃならないとか、そういうようなもので交通機関でも、例えば100円バスだとか、そういうようなものの安いものがあれば、またそういう子守を兼ねてバスに乗って公園で遊んで帰ってこれるみたいな、そういうのがあれば遠くにあつても使える公園になるんですけど、そこら辺のところ、近くのものややっぱり学校とか保育園とかはもうかちんと門は閉まってしまつて遊具なんかは使わせてもらえない。そういうのが開けたものに考えられないのかなみたいな。そうすると、さっき申し上げたように、有効利用できる町としての財産になつたり、皆さんの憩いの場所になつたりするんじゃないかなと。ポケットパークがこの間、警察の跡地にできましたけども、あそこに遊具があるわけじゃなし、何をすところか、トイレが1つあるだけぐらいな程度で。何かあそこに滑り台でも1個あるとかすれば、違うんじゃないかなと思つたりもしますけどね。

○岡本町長 確かに公園というのはね、宇都野町のほうは余りないし。

○北村教育委員長職務代行者 公園を含めた、兼ねたような園ができれば、園の部分はクローズしてしまっても、だからそういう構造っていうのは不可能じゃないと思います、この計画の中においては。だから、そういうビジョンを持ってやっぱり本当に有効利用できるものができたらなというような、後で困らないもの。ぜひそういうふうな。あと、何かこういう計画書を見させてもらっていても、改築検討委員会っていうのが6月から8月、何か時間がないような気がするんです。帳尻を合わせるための何か長さのような雰囲気はしなくもないなみたいな感じで思ったりもするんですけども。基本計画が先にあってもいいんじゃないかと僕は思ってるんで、そこをたたき台にしてああだこうだともましてもらったほうが結構いい意見が出たりや、いいんじゃないかなと思って。改築検討委員会っていい意見がどんどん出ても、出てきたものが何か何だいなみたいな、これは我々の意見が反映されてないんじゃないかみたいな思いを持ってしまうようなことがどうしてもあることが多々ありますので。

○岡本町長 基本設計のところまではね。大体民間的な発想ではあんまりないです。

○北村教育委員長職務代行者 ですね。ですから、まあ。

○岡本町長 基本計画つくらんと国の補助金をもらえんのだろうなあ。（「そうですね」と呼ぶ者あり）こういうものですよっていう計画を出さんと。その前段にはこういう委員会でもんでこうなりましたという経過を含めて。

○北村教育委員長職務代行者 じゃあ、その経過が反映されてもらっていたらいいんですけどね。あんまり反映がされてないような。

○岡本町長 いや、でも反映するんだろ。

○西村こども教育課長 そら当然そのための委員会ですから。基本計画が3月までですよね。それで基本設計は次の年度の8月までなので、3月で委員会を終わるか、いや、基本設計までは意見を聞かないけんじゃないかということで一応8月までという線で、これはそういう意味で組ませてもらっております。

○岡本町長 それはそうだな。やっぱり実施設計の段階でもやっぱあったほうがいいかもわからんぞ。どうしてもその道の専門家に任しとつても、ここは違うでというのがあって。例えば、何ぼ設計のプロでも、あれどこだったいな、ゆめっこの、雪どめや。それから雨どいがぐにゃとかってな。耐雪設計になっていなかったこともあるし。

○北村教育委員長職務代行者 素人でもわかる。我々が見たら、雪の降らないところ

の人間がつくっちゃうとわかんないでしょうけども、我々から見たらわかります。

○岡本町長 だから、これは全く個人的な意見だけど、実施設計の段階でも時々考えを述べていかんと。基本設計でちゃんとしているというもんでもないように思うけどな。個人的な見解だけど。

○北村教育委員長職務代行者 デザイン重視すると後で困る場合が。

○岡本町長 後で困るだろうな、あれな。本当に特に、さっき委員長でしたか、木造の話が出たですな。私としてはやっぱり、平屋で木造にしてほしいところです。遊戯室というか、それが木造でできるのかちょっとわかりませんがね。できるだけ地元産材を一つは使うっていうことと、平屋だったら木造でできるし、それで屋根もできるだけシンプルで、いや、雪や強風が吹いても大丈夫なようにしておいてもらわないと後が困る。

○北村教育委員長職務代行者 屋根だらけはやめてほしい。

○岡本町長 私も、屋根だらけはやめてほしいと思う。

○田中教育委員長 僕は、最終的には、広さはゆとりだけはある施設、絶対これは今公共施設ですが、だから平屋でゆとりがある土地があつてということで、そうすると教育長がさっきおっしゃったこともすごくもう1点の要望事項でね。小学校と中学校での立地条件っていうのは、詰めてくるとどこの場所がいいんだとか選定の中で変わってくる。地域住民のいるところとの距離感が大事なんです。そうすると、この認定こども園といのは、住民の住んでいるところから距離のことが気になって、どこでもいい土地があつて広くできるから、じゃあバスで通えばいいって、そういうわけもいかない。むしろ僕は、実際に今、僕、浜坂認定に孫が行っているんで時々迎えに行くんです。何がいいかっていったら、子供もいいか知らんけどね、迎えに行く人がいいんですわ、町長。前の副長もよう一緒に出会うんです。副長も来とるんです。その人たちが時間になって迎えに行つて子供を拾つたら園庭で交流するんです。あんたげの孫がおるがなとかなんて話をしながら、孫と一緒にまたいたら、じいちゃん、この人知つとんのかね。だから自転車で来れる、せめて。それぐらいな距離感があつたほうがいいのか。全く車でしかこの人が行けないというふうなことはどうかと、そんなことを思ったりもするんでね。確かに日常で人が自然的に交流ができるというのは、逆に言うと小学校や中学校にはない、こども園だからこそ日常に人が交流できるというようなことがあるのかなと思ったり、うちも若いですけども。だから、あんま

り私は距離が遠くに離れ、安くて広い、ごつつ、すごくいい、ここは山の斜面も使えますよっていいか知らないけども、遠いところにあってもどうかいなと思う。夢の話ですけど、そんなことを思っています。

○中井委員 さっきからそれぞれ地域の人と離れないほうがという話が出ているんですけどね。現実的にあと5年もしたらもう50人切るのは浜坂のエリアでも減ってしまうような状況の中で、じゃあ、どの人が自転車で来られる範囲のところを選ぶかという話になってしまうんじゃないですか。そのことよりも今の、例えば年配のおじいちゃん、おばあちゃんが迎えに行くと話ができるのは、どこにあったって迎えに行けば話ができるわけですし、そうすると、さっきの話を突き詰めていくと浜坂のど真ん中にある、そして、浜坂の一部の人が自転車でいける範囲ということにならざるを得んんじゃないですか。それよりもやっぱり、それだったら子供と、子供の中でも小学校、中学校、いわゆるこども園であって、そのエリアを固めてその中で安全に暮らせることを考えるか。今、例えば浜坂の中学校があって、その周辺に固めることができれば全体に、旧浜坂の人であれば近くなる。将来的に、例えば大庭の子供たちが減ったとしても、減ってやむを得ずそういう事態が来たとしても、上の生徒がいるとかいうところで安心できる部分もあるんじゃないかなと。地域に置いておきたいのはずっともうどこの地域の人も思ったりはしますが、例えば本当に大庭も問題が出てきて、今ゆめっこの話も出てきたけど、ゆめっこは各地域に戻っていくと言うけども、大庭だって大庭の認定こども園だって、2つの小学校に分けられるんですよ、あれだけの人数で。そのこと自体のほうが問題だし、それを考えたって今後ならざるを得んような状況がいずれかは来ると思うけども、そうなったときに通いやすい場所であったり、その周辺が今の場所だと周りがやっぱり危険じゃないとは言えないんじゃないかなと思います。さっき委員長が言われたように、広い場所で安心して待てる空間があるとか、そういうことを考えるのがもっと自然じゃないかなと思いますし、親が迎えに行っても、車で迎えに行ったとしても十分待てるようなスペースをつくってあげるほうがよっぽどいいように思ったんです。これ私見ですから、町長に余計な私見ですけど。

○田中教育委員長 いや、私のほうとは少し違うのは、中井委員はわかっているってらっしゃると思うけども、私が自転車のことを話したのは、それは全てがそれで賄えるような地域ってそんな発想は私したりしていません。そんなことできるはずもない。そうじゃなくていろんな個々があり得る点、だから自転車で迎えに行けるって、

それは少数かもしれん、そんな人たちも行けて、当然車を利用しなくてはいけない場所もあり、またはひょっとしたら園のバスを出すことが必要になるかもしれませんよ。いろんな条件のものがそこでできるようなことを考えたほうがいいな。だから極端に、いやいや、もうそんなもんないからもう一番安全だから山のこっちのほうにみんなを車で運ぶんだとかバスでするんだとかいうふうな、そういう思いではなくていろんな対応ができる、そんなものがないかな。だから、自転車で行ける人やそんな人も対応できる、一部であろうとそれはあってもいいと思います。そういう意味合いです、私のは。

○中井委員 それと1つお尋ねしたいのは、検討委員会って何でも検討できそうなんですけど、どこまでの検討を期待しておられるのかというところが、例えば定数一つとってもそうでしょうし、定数はある程度この定数で考えるというところを示して、例えば場所の選定、どういう建築物にするかとか、ある程度の意見をまとめるとか、どこまでを考える委員会なんでしょう。毎回あるように思うんですけど、それが表に出て聞いたことがないもので。

○岡本町長 いや、全部ですわ。

○中井委員 全部、それは定数もそれもひっくるめて。

○岡本町長 強いて言えば予算みたいなんですわ。

○中井委員 予算も全て含めて。

○岡本町長 最終的な予算の部分ぐらいは財政の、教育費になりますけれども。ほかには将来の基本的な、何というか、考え方も含めて、もう教育委員さんの中で検討委員会でもんでいただいたらありがたいですけど。

○中井委員 さっきから出ていた、例えば将来的に統合という事態も考えるべきじゃないかっていう意見が出たとすれば、それはそれで検討したらいいということですか。

○岡本町長 はい。

○中井委員 じゃあ、その場合定数もこのぐらいの入れるような園にせないかんとかいう話までということですね。

○岡本町長 この検討委員会っていうのはあくまでの教育委員会の機関の位置づけだな。

○西村こども教育課長 そうですね。

○岡本町長 町長部局じゃないで。だから、前の給食センターの検討委員会と同じような位置づけにせなあかんで。

○西村こども教育課長 それはそういう考えです。

○岡本町長 うん。間違えんなよ。

○西村こども教育課長 はい。それはそう思っておりますけど。

○岡本教育長 いや、だからそれはそこで協議をしていただくわけだけど、当然いろんなことを考えてこういう方向がよいのではないだろうかという腹は当然持って、それは向かわなあかんことだしね。

○田中教育委員長 そう、僕それは言いたい。だから……。

○岡本教育長 どうでしょうって言わないけん。

○田中教育委員長 僕ばかりようしゃべってあれだけれども。教育委員会でそういう具体的、具体的っておかしいけど、今、町長がおっしゃったみたいな細かいとこまで言うかもしれないけども、総合戦略の後の話と絡むんですけども、町としてこんなふうなビジョンがあって、その中の部分としての保育園みたいな位置づけを、ある程度構想があった中でそこへ行くっていうことがなければ、ただ単独にじゃあ、こども園の設置についてどないやっていう、ポンとやるよりも頭の構想がやっぱり連携要るんちゃうっていう、どないやの。

○岡本教育長 いや、だから投げていろいろわあっと議論はそりゃあね、もうこの委員会なんか持たなくてもいいじゃないですかなんていうことではないんだけど、それじゃあ、いけんわけだから。そこの皆さんの意見を出してもらうんだけど、そこをそれなりに整理してまとめていく考え方というものを持っておかないといけないということですよ。

○西村こども教育課長 定例の教育委員会もあり、こういう総合教育会議もありますので、そこで重要な部分の検討もあって、それにプラスっていうか、メンバーをふやした上での検討ということですので、何か丸投げでその検討委員会ということじゃなしに、その辺は整理した上で実際の立ち上げのときには、というね。

○岡本教育長 それはそうだ。

○北村教育委員長職務代行者 個人的な意見で非常に恐縮なんですけど、ゆめっこの建物を含め、それから使ったお金を含め、本当に負の遺産だと思うんですね。構造のものとかデザイン重視にやっていて、先生たちの交流も見通しもないし、寒いし。

だから、あれを反省材料にしてふだん、百聞は一見にしかずなのでどっかはモデルになるようないいところがあったら、やっぱりそれを見てくるっていうのもやっぱり非常な勉強になると思うんです。

○岡本町長 いや、大事なことですわ。

○北村教育委員長職務代行者 だから、悪い例はあそこにあるので、見る必要ないですけど、いい例を見てみたい。

○岡本町長 今、記憶でどこでどこを見たかわからんだけど、園庭にそれこそポット苗にした芝を植えてな、全部木造でつくった、これは町ですわ、たしか。町がね、町営の、まだこども園って言わん時代だったから。僕、町長になった後だったかいな、その園舎を見たことがありますけどな。ああ、立派なのだなと思っただけど。

○中井委員 放射状になった園かな。

○岡本町長 放射状じゃない、普通の保育園だったけどな。

○北村教育委員長職務代行者 外からなんですけども、八頭に新しい保育園ができていて、それで、ちょっと仕事の関係でしょっちゅうあそこら辺のどこちよろちよろ行くもんですから、そうしたら遠くから見ていたら、ああ、何か木造の、今は大体木造ですけどね、何か新しい園ができていってというのがあって、そういうのが例えば地域で、あそこの気象条件も同じようなところですので、そういうのが……。

○岡本町長 それ八頭だった。

○北村教育委員長職務代行者 八頭だった。

○中井委員 森の何とかじゃなし。

○岡本町長 それは智頭だ。

○北村教育委員長職務代行者 いや、ちょっと詳しく言われたら、場所はわかるけど。

○岡本町長 中井委員が言うのは多分智頭だ。

○北村教育委員長職務代行者 智頭ですが、智頭のね。智頭じゃない、八頭だと思う、あれ。風車の手前、あれ過ぎたところか。山の上にある。今度、住所見ときます、また行きますんで。

○岡本町長 いや、そういうのは検討委員会なりで視察を打ったりね。

○北村教育委員長職務代行者 視察なり資料なりね、最初は。そういうのを提供していただいて、できたらね。そういうのはやっぱり行政のほうでお願いして、資料集めというのは。

○西村こども教育課長 そうそうそう、はい。

○岡本町長 ただ、しっかり見てもらわないとあかんと思います。

○北村教育委員長職務代行者 対比としてゆめっこも見てもらってね。言い過ぎですか。反省材料に。

○中井委員 反省だけでいいにしましょう、何回見ても形変わらんし。

○北村教育委員長職務代行者 あれ、でももう少し工夫したら、例えばあそこの、何だか、先生がいらっしゃるところを別に移したりだとかすれば、もう少し教室のどこに移す、少し人数が減れば移して園児が見えるようになったらと思う。何も見えない、あの職員室なんですよ。みんな聞こえそうでみんな聞こえない。聞こえてならんことはよう聞こえるみたいな。

○岡本町長 あの丸いところか。

○北村教育委員長職務代行者 丸いところ。

○岡本町長 ちょっとわしもようわからん。

○田中委員長 ほとんど使ってないそうです、あそこは。

○北村教育委員長職務代行者 人が行ったことがないし、何のためにあるのかっていったら、やっぱり寒い、何せ寒い。

○中井委員 職員室の真ん中に事務室がね。曲がってるから見えないんですわ、向こうが、たしか。

○岡本町長 こうなってるからな。

○北村教育委員長職務代行者 あそこ全部取っ払っちゃって子供の何か自由なスペースにしたりだとか、何かカーペットひいて暖かくしてってやれば、あとここはどっからでも見えるわけですから、そういうような考え方で構造を考えたほうがいいんじゃないかなと思ったり。それも余談の話です。そしたらあしき園じゃなくなる。

○岡本町長 そういう構造も含めてね。

○北村教育委員長職務代行者 そうですね。

○岡本町長 基本設計でそういう基本的な設計の考え方、出るのは出るですけども、本当は検討委員会でもそういう、例えば大工さんだとか、仮の話ですけど、左官屋さんとか、若い者のそういう人がおったらやっぱりそれなりの見方でしますわ、屋根屋さんとかね。はあ、そうかと思うようなね。僕らはどっちかいうとそういうところ全然わからんし、そしたら、何ぼそういう基本設計で基本的な設計思想がそこに反映さ



れたとしても実施設計の中で、あかんがな、これじゃあと。これは反対側がいいとか、そこまでやっぱり見えるですわ。それで、本来はそこまで見てほしいという気がします。特に建築は、うちの町は係がおらんのですわ。市レベル以上になったら建築主任とかが、必ず要るですけどな。市町村の段階ではおらへんでもええですし、おらへんですわ、うちは、見られる者が。どこの町も一緒ですけど。そんな人もやっぱり何人かはおったほうがいいですわ。これはもう何でもうちのそういうことに言えることですけどな。

○田中教育委員長 以前、小学校の建築の委員会がありましたよね。よう見たらこんなもんあきまへんって僕に言われる。雪が降るとこだのに下足場のほう見たら廊下があって向こう側に下足場がある。普通みんなはだしでぺたぺた廊下そんな設計で、しかも子供は長靴で来るんですよ。全然頭に入っていないから下足場が全然そんなことになってない。だから全部やり直し。西小があれ設計ミスですね。べたべた靴脱いで上がらんと置けない。はだしで歩かんと置けない。だから、小学校ってのはもう下足場は入ったら全部すのこがあって、あれは昔から一緒に、あれはやっぱり理にかなってるんですね、そこでぽっと入れる。西小なんかべたべたはだしで上がって何と向こう側に下足場。だから、あれやめいと僕は言った。だから、やっぱり知らないから、姫路のほうの設計士がしとられましたから。だから下足場、全部長靴入るようにそれ全部直して。

○中井委員 どういう生活しているかっていうのはわからんですね。

○田中教育委員長 だから絶対あると思います。

○岡本町長 だから、地元の人でも要るだんな。例えば最悪のパターンなんか、直近では温泉小学校だ。何もせずにタイル張ったもんから、水がばあってなって、し直すのに何と500万だかまた突っ込んでな。前教育長がもうかえてくれっていつて。だから地元のそういうことをよう知つとられる人もおらなあかん。

○北村教育委員長職務代行者 だから園長経験者とか、そういうような方も本当にいらっしゃってとかね、やっぱり。

○岡本町長 いや、おらんと。

○北村教育委員長職務代行者 自分たちのやってきた、やっぱり我々のわからないとか、目のつけようとかね。だから、私らが、ゆめっこのときにも言われたんです、あるそのときの園長の方が私らをこの検討委員会だとか立てるときのに入れてもらっ

たらこんなことはもう大反対しますって言って、見えるはずもないしって言って。だから、我々のことはデザイン重視でこんなこと、今現に働いておられる方もそうですしね。暗い、暗いって言って何か教育委員会にいつも指摘されるけど、建物が暗いんだって言って。私ら明るいついていて反対に怒られますんで。

○岡本町長 暫時休憩します。

〔休 憩〕 14時55分

〔再 開〕 15時06分

○岡本町長 それでは、北村委員はちょっとおくれるようでありますので、再開をさせていただきます。

一応この案件につきましては、いろいろと御意見も賜りましたし、基本、提案させていただきましたように30年を目途に浜坂認定こども園の改築に進んでいくということで決定させていただいてよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ただし、詳細な部分については、このスケジュール案等につきましては、まだまだ精度があるものではありませんので、進行状態によって熟度をしっかりと見きわめながらスケジュールをつくっていくということで御了承いただきたいというふうに思います。

○西村こども教育課長 ちょっと1点補足の説明をお願いします。先ほど認定こども園の補助金の関係で対象の件なんですけども、3ページをちょっと見ていただきたいんですけど、3ページの浜坂認定こども園、129人現在おるわけなんですけども、補助の対象としてはそこの保育認定1歳児、2歳児、これ18人と14人で32人というのがあります。ここが対象外になって、それ以外の97人は施設整備の対象になりますので8割弱、ですので全体の8割弱を掛けて、その3分の1というふうな理解で、済みません、先ほどちょっとそこが不十分でしたので。

○田中委員長 3歳から。

○岡本教育長 3歳からの補助対象ということ。

○岡本町長 そしたらちょっと補助が集まる。

○田中委員長 3歳以上ですか。

○岡本町長 それでは、一応、認定こども園の改築についてはこれで閉じさせていただいて、次に、地方創生総合戦略について、次に事務局のほうで説明をさせていただ

きます。

○西村こども教育課長 それでは、7ページをお願いいたします。新温泉町の地方創生総合戦略が10月の末に策定されました。この策定に当たりましては委員会がありまして、田中委員長も委員として出席をいただいておりますし、私も子ども子育ての部会長ということで出席をさせていただいております。この戦略についてこれから若干説明させていただきまして、問（1）、問（2）ということで今後それに取り組んでいく中でまた御意見をいただきたいということでお願いしたいと思います。

それでは、8ページからお願いいたします。きょう学校園の予算の説明会を学校園に対して行ったんですけど、来年度の予算編成についてこれから取り組んでいく時期ということで、今回策定されました総合戦略についても、参考にして予算編成というふうなことがございますので説明をさせていただきます。この戦略につきましては、国全体として人口減少、少子高齢化が進んでいくということで国と地方で戦略を策定をして、この5年間ということで集中的に人口減少等に取り組んでいくというのが趣旨であります。

いろんな分野があるんですけど、きょうの資料として出させていただきましたのは、子ども子育てに関する、9ページ、基本目標3ということで、テーマとしては「まちが見守る若者の未来」というふうなことで出させていただいております。そこに書いてありますけども、やはり出会いの場をつくっていくというところから、結婚、出産、それから育児、教育というふうな部分で切れ目のない支援を行って、あわせて新温泉町の自然環境を生かしたふるさと教育を実施していくことで、若者、子育ての世代にとって安心して住みやすいまちづくりを目指すというふうなものでございます。数値目標ということで書いてあります。婚姻の件数が26年度で45件だったものを5年間で260件ということで、1年にしますと52件ということになります。それから出生数が26年度は85人ありますが、これを5年間で434人ということで、1年で割りますと86.8人というふうなことであります。先ほどこども園のほうの資料の中で、平成32年には62人というふうなことがありましたし、31年には66人というのが推計値でありますけども、それを86人までふやしていくというふうなことの戦略であります。それから合計特殊出生率が、これは平成22年の国調でありますけども、新温泉町は1.76であります。現在、国と県が大体1.4か1.41ぐらいということでありますので、新温泉町は合計特殊出生率はかなり国、県に比べ

ましたら高いというふうな状況があります。但馬全体が大体高い傾向にありまして、同じく22年の国調で、豊岡市が一番高いんですけど、1.94というふうな数値になっております。2番目が1.84で香美町で、3番目が新温泉町の1.76というふうなことであります。これが数値目標ということになります。それから、施策の基本的方向ということで3つ上げておりまして、出会いから出産までの希望の実現、それから2点目が子育て支援の充実、3点目が子供の教育環境の充実ということで、3つの基本的方向を定めております。

それでは、10ページをお願いいたします。3つ決めました1点目の出会いから出産までということで記載をしております。事前に議案についてはお配りしておりますし、主な事業ということで上げておりますが、中には現在もやっている事業もありますので、新規事業ということを中心に説明したいと思います。まず、出会いの場の創出につきましては、①出会いの場の情報提供ということで、昔に比べましたらスマホとかが普及しておって、出会いというのはある意味多様な形で進んできてはおるんですが、なかなかスマホで知り合ったということもあるんですが、それよりもやはりフェイス・ツー・フェイスで出会ったほうが何かその後うまくいくのではないかというふうな部会での意見もあって、出会いの場の提供というふうなことが考えられております。それから、ウの出産サポート体制の充実ということで、①不妊治療や妊婦健診に係る経済的支援ということで、現在も不妊治療ということで県のほうの補助事業があって、それに町のほうで上乘せするというふうなこともしているんですが、これについてやはり不妊治療で治療している方というのは本当に子供が欲しいけどできないという状況でありますので、そういった支援がいいのではないかというふうなことはあります。それから2点目に、第3子以降の出産に対する支援ということで、やはり3人目を産んでもらうというふうなインセンティブのために、何かそういう3人目を産んだ経済的な出産祝い金とか、そういったものを考えているというふうなところであります。それで、この表の右側にいろんな数値が書いてありまして、重要業績評価指標ということでKPIということで数値目標がそれぞれ上げております。

それでは、次のページをお願いいたします。子育て支援の充実ということで、まず子育て環境の充実で、①保育ニーズに対応したサービスや施設の充実ということで、ここには大まかに書かれておりますけども、このサービスというのは例えば病児病後児保育、これも5年間の中で実施していくというふうなことを想定しております。そ

れから、施設の充実というのは、先ほど議論いただきましたこども園の改築等についてはここで記載をしております。それから、④で三世代同居や近居の支援ということで、最近国のほうも三世代の同居が子育てに関しても介護についても非常に有効だということで、同居が一番いいんですが、近くに住む近居ということで、今までは同居か別居かだけだったんですが、近居ということで、例えば一つの村の中に住んだ場合に何らかの補助ができないかというふうな計画でございます。それからイで、②多子世帯への保育料軽減ということで、これも現在2人目が半額、3人目が無料というふうなことがありますけども、今、国全体といたしまして幼児教育の無償化ということが確実に検討が進んでいる方向であるというふうなことがありますので、これまでの意見の中では保育料完全無料化というふうな意見もありましたけども、現在、保育料の年間の収入というのが6,000万ぐらいありますので、それを現段階で無償化というのは難しいのではないかというふうなことで、国の方向性に沿った中で軽減を図っていくというふうな方向性でございます。それから、ウで子育てと仕事の両立支援ということで、②で放課後児童クラブの充実というのが書いてあります。現在、浜坂、温泉、両地域で1個ずつの放課後児童クラブがあるわけですが、やはり公平性というふうなことで、北小や温小だけではない学校の児童についても、夏休み等はある程度利用があるんですが、できれば移送サービス等で利用できるようなサービスで、各校の児童生徒が利用できるような形態がとれないかというふうなことがこの事業でございます。

それから、最後12ページであります。子ども教育環境の充実ということで、例えば③のところで、町内の小・中・高等学校や近隣大学等も含めた通学費補助や通学手段の確保ということで、浜坂高校の場合が結構、鳥取城北高校の無料バスが町内に入ってきているということで、城北への進学というのがかなりふえてきているというふうな中で、浜高の保護者のほうからも温泉地域からのバスの軽減なり無料化というのができないかということも出てきておりますので、県立高校でありますのでそれは県がすることではないかという御意見もあるんですが、やはり戦略として浜坂高校生の志願者の確保ということで、やはり通学のバスも含めた対策ということが必要ではないかということでございます。それから、次にイの①でふるさと教育によるふるさと意識の醸成というふうなことで、ふるさと創生の住民アンケートと浜坂高校の生徒全員にアンケートをとってございまして、浜高の生徒のアンケートの中で将来、新温泉町

に例えば一旦出てもUターンしたいですかというふうな回答の中で、38%はUターンしたいというふうな回答をそのアンケートの中では出ておりました。やはりそういった帰りたいというふうなことに対応できるような雇用や、そういったことも要るのではないかというふうな議論でございます。それから、現在、商工会の青年部のほうでタイムカプセル事業ということで、各小学校の卒業時に小学生にタイムカプセル用の用紙を渡してそれを書いてもらって、成人式のときにそれをあけるというふうなことを商工会青年部のほうで依頼を受けまして、各小学校で取り組んでおるんですが、そういったことでもふるさとに帰ってくるというふうな取り組みの事業として民間のほうでも進んでいるというふうなことであります。それから、生涯教育課のほうでふるさと先人賞ということで、前田純孝とか加藤文太郎賞とか新たな賞を設けて、児童生徒で優秀な取り組み等があった場合に表彰するというふうなことを新規事業として考えております。それから、最後に時代に応じた学力の向上ということで、①幼児期からの英語教育による英語力の育成ということで、現在、ALTについては小・中学校に在籍をしておりまして、小学校のほうにも行ったりしているんですけども、それをこども園のほうまで進めて、こども園におきましても何か英語に触れる機会をつくるというふうなことを計画しております。例えば、色とか野菜とか動物の鳴き声とか、その辺を遊びの中でネイティブな英語に触れてもらうというふうな事業で考えておるところでございます。

ざっと説明をさせていただきましたけども、このような事業をこの5年間取り組んで、人口減少、少子化に対応していくということで戦略として策定をしておりますので、またこの計画の実施等につきまして御意見をいただけたらということでもあります。以上です。

○岡本町長 この総合戦略につきましては、10月の29日に正式に決定をいたしました。前段で議会のほうの総務教育常任委員会に提出させていただいて一応意見を求めて、その上に立って本会議で決定したということになります。これは総合戦略全部、後で、抜粋じゃなしにお手元のほうにお渡ししたいと思いますけれども、とりあえず抜粋でかわりのある部分だけできょうはさせていただきますけれども、事務局から報告がありましたような形で5年間頑張ってみるということになっております。つきましては、こういう点はもっと力入れとか、あるいはまた、この点はちょっとこういう点で留意しながらとか、いろんな御意見もあろうかというふうに思っております。

忌憚のない御意見を拝聴したいというふうに思っております。

全国津々浦々でこの人口ビジョンと総合戦略というふうなことでやっているわけですが、押しなべて人口減少をどうするかという、これは非常な難題で、ただ、何というか、人口減少が激しいんですけど、ただ出生率も高いということについてはそれなりの自負を持っていいんじゃないかなと。それから、たまたま22年の国勢調査で県下で第3番だったんですけども、それまでは県下1位であったり、そういうところをキープして3位以下になったときはありませんので、そういう中で一番の目減りするのはやっぱり18歳で外に出ていくと。これは但馬中押しなべてそうなんですけど、それを出ていくなということはこれは絶対無理がありますし、自分の過去を振り返っても出て行って帰ってきたと。帰ってくるところで何とか今の帰ってくる人数よりも相対的にまだ大きなものにしていくためにはどうすればいいかと。その辺が子育て環境であったり、それから出会いであったり、それから雇用であったり、いろんな複雑なふくそうするものがあるわけですし、そういう面もできるだけ整備していく中で、特にやっぱり出生とかそういうことを考えるとやっぱり第3子に注目すると、政策的にそれが何があるかはいろいろと検討せなあかんわけですけども、第3子に注目する、第3子が生まれやすいようにする、そういったところに一つの視点があるんじゃないかなというふうに思っております。それで何よりも帰ってくること、よそへ出て帰ってくること、ここにやっぱり最大の力点を置いていかなければならないというふうに思う。そんなようなことで皆さん方にも、その面ではここをもっとこうだっというようなご意見がいただきたいなあと思っております。

○小南委員 済みません。

○岡本町長 はい。

○小南委員 今、社協のほうで地域との意見交換会というのを開催、昨年度からしております、50カ所ほど地区を回らせていただいたんですけど、そこでグループワークを最後する中で住民さんから出てくる意見に必ずといって出てくるのが高齢化で、その原因が若者の流出っていうことで、その原因がやっぱり雇用の場がないっていうところに来るんですけど、社協としてはそっち方面ではなくて、地域でできることを考えていきたいと思いますように持っていくんですけども、やっぱり雇用の場がなくて子供を連れて戻れんっていう意見がすごく多くて、ここにも若者の就労環境の確保って出ているんですけど、具体的にはこの基本目標3のところでもそういう雇用の部分は触れてな

いですよね。それはまた別のところで。

○西村こども教育課長 ああ、そうですね。別にありまして、分野が。きょう抜粋したのはもうあくまで子ども子育てだけの。

○小南委員 別の部分で。

○西村こども教育課長 ええ、別のところにはあります。

○小南委員 じゃあ、やっぱり行政の計画でそういう雇用の場に対する対策っていうのは考えておられるっていうところはまた住民さんにお返ししても大丈夫……。

○西村こども教育課長 もう戦略は、当然行政と住民とで取り組んでいく、協働して取り組む計画という位置づけですんで当然それを示していただいたらいいかなと。

○小南委員 はい。わかりました。あと、この12ページのアの部分に主な事業のところの1番に教育相談の充実による親や児童生徒への丁寧な対応の推進とあるんですが、これは具体的にはどういった事業になるんですか。

○西村こども教育課長 子ども相談室とかね。

○小南委員 あ、やっぱりそうですね。すごく不登校が多いじゃないですか。今、よく知り合いの方からも2カ月ほど子供が学校に行けてないっていう知り合いの人がいるけど、教育委員会でどういう対策をとられているんだとかっていうふうなこともちょっと聞かれたりして、そういう相談室のことだとか、学校のほうでも担任の先生を中心に多分対応されているとは思いますがというのはお答えするんですけど、どうしてもやっぱり学校に行けないと学力がつかなくて、例えば中学校で人間関係で行けなかった場合でも、基本的な義務教育の学力さえついていけば、最低限高校や大学と行ったまた新たな機会のときに行けるきっかけになって、子供にとっても親にとっても未来が開けるけども、学力もついていなければもう先が見えないっていうような意見も聞いたりするので、本来学校は学力だけじゃなくて、そういった礼儀だとか人間関係を築く場でもあるんですけども、本当に行けない子供たちにとってはそういった最低限義務教育の責任といいますか、そういったものだけでも何かつけさせる方法っていうのがあればなっていうのをちょっと思ったんですけども、難しいですよね、済みません。

○西村こども教育課長 不登校は浜中の3年に多いというのがいつも出てくるんですけど、保健室登校や夜だけ登校とか、そこで一定学力のこともあろうかと思しますので、今年度浜中チームとして不登校の対策チームということで取り組んで、例えばト



ライやるは出てきたり修学旅行だけは行ったりとか。それから、何か不登校だった子がこの間弁論大会で発表するようになったと、したというふうな、今後改善する実態も見えたりしておりますので、取り組みとしてはやっているのかなというふうには思うんですけどね。

○小南委員 3年生に9人でしたっけ、多いので、この卒業した3年生がいなくなったら多分数字的には少なくなるのかなとは思いますが、でもその子供たちはその先の未来っていうのが、やっぱり進学を控えていてどうなるのかなというのもちよっと思ったりしました。

○西村こども教育課長 教育長。

○岡本教育長 先ほどのどうなのかなってことで、それぞれの、何ていうか、求めるっていうか、ところは教室の中に入っていくということですよ。だんだんちょっとずつちょっとずつそれに近づけるように努力は学校ほどの学校もしているんです。廊下の前まで来たけどもそこから入れんとか、廊下に机を置いて、これは浜中じゃないですけど、勉強していて、それが入れたとか。いろいろ段階もあるし、その子によって保健室で勉強させられてじゃなくて保健室まで来られるようになったというふうに捉えて、そこはね。だから、退屈だから教室で勉強できずに保健室で勉強させられてということではない。教室に何とか入れるようにというのを求めていこう、願って取り組みはしているんですけど、教育委員会っていうことは、そういう情報は共有しながら教育委員会としてできることは何かという部分で、基本はその学校の職員、特に担任を中心としたその子へのかかわりということは基本ですので。

○小南委員 そうですね。

○岡本教育長 他市町では適応教室というふうな形で、学校に行かなくてもフリースクールみたいな感じでそこに勉強したら学校に行ったのと同じ、要するに出席扱いみたいな施設というんかね、そういうことを取り組んでいるところもあるんですけども、新温泉町ではそうじゃなくて、学校に行かなくてもここで勉強したらええわというんじゃなくて、学校にみんなが行けて勉強できる、そういうやっぱり環境づくりやかかわりというのをやっていきたいと。そのためにはスクールカウンセラーとか、あるいはいろんな専門機関にアドバイスを受けて、月に2回ほどですかね、専門の人と計画してこういう人の保護者と本人とか、そういうのでアドバイスもらったりとか提案もらったりとかというようなことも、何ていうかな、いろんな手を加えて学校にとい

うことを取り組んでおるんですけど。

○小南委員 やっぱり学校側はそういうふうに子供のことを考えて支援をしているんだけど、保護者のほうはそういうふうにさせられているって感じて言ってしまうってことなんでしょうね、じゃあ。

○岡本教育長 そういうふうに言われたら私はどうも答えようがないんだけど。その部分というのは学校と家庭とがね。

○小南委員 うまくいけてないところでもあるってことですな、じゃあ。

○岡本教育長 うまくいけてないということは聞いてないですけど。十分に連絡とり合ってそれなりにお互いが了解して進んで現在があると。

○小南委員 わかりました。ちょっと私もたまたま聞いた、行けてない家族の方にちょっとそういうふう聞いたもので、何か学校は支援しているんだけど、うまく保護者のほうも何かそれを素直に受けとめれなくて、学校に対して反発心みたいなものがあるのかなとちょっと感じたりして。

○岡本教育長 そこらが上手にいった部分があるかもしれませんね、それはね。気をつけていかなあかんことだし。

○小南委員 わかりました。

○岡本教育長 当然そこらの努力はしとるというふうに思っておるんですけど、食い違いがある部分があるかもわからんわね。

○小南委員 わかりました。

○岡本教育長 だから、例えば専門の先生なんかでも無理に学校に行かせずに、余りそういう方向でががが押さないほうがいいですよというふうな、例えばそういう指導というんか診断というんかね、そういうことをされたりとか、いろいろでしてね、その部分で、心理……。

○小南委員 難しいですよ。

○岡本教育長 かかわる部分についたらね。だから、そこらでうまく本当に意思一致といった部分が十分できてないということはあるかもわからんけど、つきもんといえぱつきもんなんですけど。いずれにしても、そういう子供を持つ親、特にそこらのところは非常に不安が、いつもね。

○小南委員 被害妄想ではないんですけども、あるかもしれないですね。済みません、何かもう。

○岡本教育長 中井委員、どうぞ。

○中井委員 いや、正味学校側とすれば当然学校に来てほしいだろうと思うし、するけど、さっき小南さんが言っておられた、やっぱり親としてみれば学校に行かんのはよしとしても、出たときに中学出た能力が身につけてないとやっぱり社会に順応できんっていうことが出てくるんで、やっぱりその間は休んでもらってもかまへんけど、社会に通用するとか、出て働けるだとか、そういう能力を身につけてほしいなということが大前提にあると思うんですよね。そうすると、さっきフリースクールなんていうことも出てきましたけども、何らかの形で学校という場だけじゃなしに、能力の裏づけをつくれるような考えがでんのかなど。学校に行きたくない人を無理やり行かせるんじゃなしに、別の場所でやったら勉強する子っているし、学校に来んでも家で勉強してるっていう子も何人か見てますし、学校に行かせて、さっきの、何だ、保健室なんていうのは多分本人が教室に入りたくないという前提があつてのことだろうと思うし、それだったら保健室まで通って学校に通うのも大事だけど、能力をつけられる何かシステムとか、そういう場がつかれないかな、学校の中だけじゃなしに。そういうことを考えるのも必要じゃないかって。10人とかって数がやっぱり出だすと、1人2人の時代だったらいざしらず個人の問題ってこと言えても、10人ぐらいだったらもうそういう時代なんだという気がしないでもないし。そういうことも学校教育の形を変えてできないかなという、勉強の場だけなんですよ。

○岡本教育長 どうなん、そこら辺は。

○中井委員 学校に行かないかんということもないだろうし、家で勉強。

○北村教育委員長職務代行者 昔だったらね、手に職つけるしか手がないなみたいな感覚だったけど、今はそういう時代じゃないので、やっぱりある程度はそういうようなことも課題になるのかなと思って。

○小南委員 知り合いで、もう20歳過ぎている女性の方なんですけど、不登校でやっぱり中学の間行けなかったそうなんですけど、親御さんが学校に行かない間にいろんなところへ連れていってくれて、でも学力はつけさせたいということで家庭教師をつけられたそうで、それで高校からは何か行けるようになって高校、大学で、今は就職して社会に順応されているそうなんですけど、何かそういうふうに保護者のほうが子供に合わせて教育をされて、社会で活動できるように育てられたっていうパターンもあるんですけど、保護者にそういう力がなかったら本当に社会に出ていけなくなっ

てしまうのかなってちょっと思ったりはしたんですけど。たまたま今年3年生にすごくたくさん不登校の生徒がいるので、将来的に大人になったときにこの子たちはどうなるんだろうと思ひまして。

○中井委員 子育て支援にも絡むんで、それは子ども子育ての部分の書いてあったらそこら辺の支援が欲しいですね。

○小南委員 ちょっと義務教育の支援っていう部分で、確かに本当に数字的にはこの3年生がいなくなるともう本当に、もしかするといなくなるかもしれないんですけど、不登校の生徒が、この先の。もしかすると、またどんってふえてくる課題でもあるのかなと思ひたり。済みません。難しい。

○岡本町長 私も門外漢でようわからんけども、役場の職員でももう役場に行きたくないっていう職員もおるんです、心的ストレスっていうか。いわんや子供たちにもそういう子もおると思うんです、当然な。それで、できるだけそれを少なくしていく。それが公教育というか、公教育とはどこまでのものかっていうことにつながっていくんだけど。教育を受ける義務だ権利だっていう前に時代的な移り変わりっていうか、俺らはもう学校行かなんだら、もう本当に家においてもらえなんだ時代とはちょっと違うと思うんでな、流れが。だから、確かに不登校というものを捉えると背後にある原因というのが、例えば極端にいじめがあったとか、これはもう学校現場の中でゆゆしき事態だと、その原因を排除する。どうしてもその子が心理的にここの学校にいたくないと、なら転校という手もある。その背後にあるものをしっかり捉えて、打てる手を打っていく。どうしても、いわゆるフリースクールのようなものが短期的にでも必要であれば、機動的な対応ができるような考え方もしていくとか、そんなことも必要かなというふうに思う部分もあります、確かに。決してそれが常設である必要はないし、そういったものが短期間でもつくれて、成長期に合わせて2人でも3人でもそこでやれるのであれば、公の機関としてできたらしたほうがいいというか、それはあるんじゃないかなと思ひますわ。そのまますべからく教育委員会の中で検討して一つの方角性を出してもらったらいと思ひ、病児保育かいな…。

○西村こども教育課長 病児病後児。

○岡本町長 病後児保育でも、今の時代の中でそれが必要なときっていったらやっぱりあるし、政府が1億総活躍大臣というのをつくったけど、そういうどこまで実効性があるかわからんけど、みんなが自分の能力を発揮できるような、そういうことを支

えるようなことがちょっとでもできたら、それはそれで必要であればしたらいいというふうに思うんです。時代が相当大きく変わるとし、そんな思いはしますな。

○岡本教育長 だから、セーフティーネットみたいなものを本当にどういう形でつくるのかどうなのか。例えば、もう半ば強制的に学校にもう行くもんだというふうに親がやった場合に、それが功を奏すという場合もあればそうでない場合もあってみたり、ならもう学校に行かなくてもここでええがなというふうに、そこらへんはいろいろでしようけど、そういうふうになってしまって、それで本当にその子にとっていいのかどうなのかっていったようなこともそれぞれの子供によって違うとといったこととかね。だから、これまではもうそういうふうなフリースクールみたいなことではなくて、教室みたいなことではなくて、その辺はその地域の子供らが行っているやっぱり学校が中心になって、そこを主体にしていろんな関係機関も含めて連携して何とか学校で勉強できるようにということの体制、連携、それを重視していこうということであつたわけなんです、今もそうなんだけど。だから非常にそこはね。それから、例えばずっと不登校だから出席してませんからもう卒業できませんよと、卒業証書をあげませんよということはこれ法的にできるんですけどね、原級措置というか、ずっと卒業させずに。でもそれはしてない。それもやっぱり本当にそうすることがいいのか、そうしとつたらずっと卒業せずに同じ状態じゃないかっていうふうなことがあつたり。高等学校に行けば義務教育と違って通信制もあるわけですね。もうちょっと、不登校だった子が通信制で頑張るとるとということも結構ありますしね。それで、うちの町の場合は不登校だから、昔と違いまして高等学校に行けないという状況ではないんですよ。その子が行けば高校は受け入れてくれるという、浜坂高校はまさにそうですし、だからそういったこともあるんで、ならずと卒業させずにおりますわということは、それはよくないなということで卒業はさせとるんですけどね。だから、そういうことは時代も変わって条件も変わってということでは、そういうこともあるし、実際にそういうことをやっている市町もあるわけですけど、現状のところはそういう形で学校を主体にして連携するということであつて来ているという現状にあるわけです。

○田中教育委員長 私、発言どういう立場でしょうかと、それで困っておるんですけども。結論から言うと、うちの町にはだから子ども相談室があるんです。町長のときにつくってもらったんです。それで、ただ現状は僕ちょっと今はどうなるとるか知らんけども、私1年しましたけども、親の会もあります。そういう親たちが集まって一

堂に私たちは家庭の中でどう対応すればいいかと。しかし基本は、教育長が今言ったとおりで、本当はこの子供は今何々中学にしたらその校長のもとに存在しますよということが大前提です。だから、校長は全ての子供が私の学校の私の指導の傘下にありますよっていう基本を絶対逸脱しない、外もしないという大原則があります。ただ、じゃあ、子ども相談室は何をするかという、町内のそういう子供の状況を全て掌握する、学校はデータを持ってますから。そして学校を支援する。必要で共通理解があれば直接子供を支援する。だから、さっき言った、私おるときにもあると思うんですよ。相談室に親も来ますけど子供も来りましたよ。だから、そこでパソコンもありまして、僕一緒に勉強しよりましたよ。そういうことが必要な子があってそこまで来られるならしてましたし、浜中から先生おりに来よりましたよ、空いた時間に、そこで一緒に。そこまでは来れる、学びたい、だからそこでしてましたよ、通ってましたよ。何か家から出られないという子もいましたね。私、家まで行きましたよ。親と話しました。逆に、みんな子供は学びたいけど学びたい子ばかりちがいますよ、全然もうしたくない、何もしたくない、部屋に閉じこもってゲームしとりたいと、おりますよ。じゃあ、その子の閉じている扉をどないして開けるかっていう。それこそ教育長が言われたみたいに、関係機関の専門家のこんな機関がありますよってつないでいってその方と一緒に、じゃあ、そこへ出かけましょうとか、来ていただきましょうとか。カウンセラーもおるからね、今度はカウンセラーに頼みと。絶えずそうやって、子についてどうすべきかということでやっている。だから、今の小南委員が聞かれた話のお母さんは、多分学校とその意思疎通のまず段階が不十分なんでしょうね。

○小南委員 そう感じましたね。

○田中教育委員長 だから、まだ入り口でお互いとまっちゃってる。でも、そういう親もいました。一切学校にかかわってもらいたくない、うちの子はうちですと。おもしろいのは、民宿だったかいな、民宿の手伝いをさせとる、学校行かせずに。北村委員の近くでありましたね。もう学校なんか要らん、もう話もしたくない、来てくれるな。ほっといてくれ、そういう……。

○岡本教育長 今もそういう家庭もね…。

○田中教育委員長 そういう家庭もあるんです。だから、いろんな対応の中でやって情報をつないで、専門機関ともつなぐけれども、あくまでも学校で。学校は学ぶの

は学習だけじゃありませんからね。生きて働くのに教科の勉強だけで世の中に出れるって、大間違い。そんなもんで生きていけたら世の中楽なもんです。こんにちはって言えたりね。手洗いができたり。

○北村教育委員長職務代行者 学校に不安があるんだったら、子ども相談室を紹介されてそこに行ってもらったらいいんじゃないか。

○田中教育委員長 まずそこに行って、うん。

○岡本教育長 そこは必要に応じてうちの指導主事なんかも動いたりね。

○田中教育委員長 やっていると思いますわ。

○岡本教育長 一緒に車に乗ってちょっと散歩ってことをしたりとかね。そういうこともやっ取るんですわ。

○田中教育委員長 していると思いますわ。

○岡本教育長 だから、どういう何をしたらええのかっていうことを常に選択しながら。

○小南委員 そうですね。

○田中教育委員長 だから、むしろ、私のときでもほかの町からどないしてしとるんやって見に来たいなっていうぐらいでしたよ。ある町は支援教室みたいなことをやっていますね、勉強するだけのことを見る。そのかわりほかのことは、家におる子は全然ほったらかしですよ、あそこは。勉強したいけど学校に行けん子だけ来なさい、勉強教えますと。そういうことをやっている。じゃあ、それが本当にいいのかどうかっていうやなことだと思います。まず開いてみて、だけど全部ケース・バイ・ケースだと思うんですね。

○岡本町長 多分、個別具体的な事案でそれぞれ違うと思います。

○田中教育委員長 全部違います。

○小南委員 そうですね。

○北村教育委員長職務代行者 ただ、中学校を3年間出てしまったら、はい、知りませんよっていうのではまずだめだと思うんですよね。だから、そういうのをどういふうにつないでいくかっていう機関もやっぱり子ども相談室っていうのは、どうしても義務教育ではないけど、ただ教育委員会の管轄だけになってしまいますので。あとは自治体として地域で子供を育てるとして考えていってそういうことをうたうんで、丁寧な対応の推進とってうたうんであれば、やはりそういうところも加味してそう

いう機関があったとしても、それはいいと思いますし。それで全然やりたくないんだったら仕事のあっせんですとか、そういうところにまた預けるだとか、受け売りですけども、この間ちらっとテレビ見とったのでは、刑務所に入っている子がドッグトレーナーのところに行って、その様子を見て自分がそれに気がついて、ドッグトレーナーを目指すには高校を出るぐらいの学力が必要なんだ、それによって気がついて勉強をし始めたという、それはいい例ですけども、そういうこともそういうふうな機関との連携がやっぱり紹介できるというふうなこともあると思いますので、ぜひお願いしたいなというふうに思います。

○田中教育委員長 僕たった1年でしたがかかわったときの子供たち、不登校だった子が高等学校へ行きまして、その次に。僕は今でも何人もつき合っているんです、親子で。彼女ができましたといって盆に連れて帰ってきて紹介してくれたりね。親はごっつい喜んで、この子が彼女連れて帰るようになる。僕は将来こういう職業につきたいって言うから、高校出たら専門学校へ、今大阪に行ってますけどね。だから、自分が機が熟して学びたい、こうしたいと思ったときに最大の機だというふうに捉えたらええんじゃないでしょうか。中学の勉強を中学のときしなかったから、これはもう何でもかんでも教えなあかんとかじゃなくて、今あったみたいにそれが20歳であろうと25であろうと、言ったようにもっと大事なことがその子には先にあるというふうに捉えていかんとできないですね。

○岡本教育長 いやいや、ほかの人は知りませんが誰だってそうですわね。せないけんなあと思って勉強するんであって、思わなんだから。

○北村教育委員長職務代行者 したくなかったんですか。いまだに。

○岡本教育長 私らもそうだったから、ずっと。

○北村教育委員長職務代行者 済みません、話がころっと変わって申しわけないんですけども、浜坂高校のさっきの話が出たんですけども、無料化バスの話なんですけど、委員会でもちらっと出たこともあるんですけども、どうしても聞くのが城北高校の。それから、あと狙ってるのが近大がやっぱり城北高校の例を見て狙ってきている。民間のほうはそれが死活問題になってきますから当たり前なんで、どうしても公のものは後手後手に回る。県だからといって県に任せたら、県はどっちかしまいたい方向におるわけですから、それは絶対にするわけもない。としたら、やはり消えてほしくないところの自治体が頑張るしかないというのが構図として見えてくるんですよ。と



いうことは、先ほどの公園に行くことも含めてですけども、やっぱり無料化というのはそれは非常に聞こえはいいんですけども、先ほどの保育料ただとか、聞こえはええんですけども、できんものを言ってしまっても仕方がないので、やっぱりできる範囲のことを。といっても響かないことをしても仕方がないので、ですから響くぎりぎりのところを見きわめていただいて。そうしないと、今のこの流れがもっとエスカレートしそうな気がします。浜高がなくなってしまう。昔はもう本当に我々のときにはAからF組まであって、AとBが商業科で、それは皆さんのときはどうか知りませんが。そういうことで一番多かった時期じゃないかなと、それも汚い校舎でぐっちゃぐちゃになりながら本当にやっていた。だけでも人数が多いときにはすごい勢いがあったので、それからすごいやつもいましたし、そういう関係もあったりして、やはり灯が消えるっていうことは我々としても寂しいし、何とか阻止をしなくちゃいけない。早目に手を打たれないとというふうに思います。

○岡本町長 御指摘のとおりだと思っております。ただ、通学をもう無料化というような意見が出てくればそういった対応を検討したいと思っています。特にうちは18歳の話をしましたけど、15歳も多いんです。

○北村教育委員長職務代行者 転出が。

○岡本町長 住民票を移すのが。多分、附属や何かだと思っておりますけども、15歳でちょっと落ち込んで18歳でだんと落ちる。そういう意味での対応ということはやっぱり真剣に考えなあかんと思っています。浜坂高校のほうもこの四、五年、特に地域との連携というか、そんなことは非常に真剣に今本当に取り組んでいただいております。特に校長さん方も何か一生懸命、町のこともいろいろと気にかけていただいております。連携しやすいような環境にもなるとというふうに思っております。縦割りで県教委だという思いはもう今は私どももありませんし、そういう意味では浜高のこともみずからのこととして考えていかなあかん、そんなふうに思っております。

○田中教育委員長 浜高への思いみたいなのは上がってますよ。やっぱり入試自体でも他市町からの希望者が目にとまる。卒業して行って目指していくということもあり、もう一つ聞いたのは、何、ブラバンってって、何て言ってる。（「吹奏楽」と呼ぶ者あり）吹奏楽と言ってるのか。人気が高いですよ、何か、すごく地域の中に入り込んで。しかも、夢ホールでいろんな、やっぱり中学とは違う、やっぱり高校のこの子た

ちだという声はかなり聞きます。

○岡本町長 いや、何だ……。

○岡本教育長 合併10周年のときも……。

○岡本町長 さあ、ほんでそのブラスバンド部が何か取ったですよ、県大会なんか行きたとか。

○小南委員 中学校ですかね、あれ、違いますか。

○岡本町長 いやいや、高校の。

○清水生涯教育課長 高校で……。

○岡本教育長 但馬の。

○岡本町長 但馬で1番になったんかいな。

○田中教育委員長 何かそういうふうな話がだんだんだんだん入ってきて出してやっぱり私も子供に言うんですけど、やっぱり高校とかかわっていこうというので一つの子供たちのさっきの話とか、やっぱりプラス思考で僕はそう転じつつあるんじゃないかなと思う。

○岡本町長 いや、この間の努力は実ってきたような気がするですけどな。

○北村教育委員長職務代行者 みんな危機感を持つてると言うんですよね。それもあると思いますし、浜坂のある程度自転車だとか歩いていける子も含めてですよ、だからそれで、じゃあバスの代金はどんだけ要るだと試算をしていただいて、それが町の財政にとってどれだけの負担に今までなって、補助もしてるわけでしょ、そういうところで賄えていけるのかどうなのかというのはやっぱりぜひ考えていただいて。

○岡本教育長 ですから、今、北村委員のほうから出た浜高の通学というの、それも含めて。それから委員長がさっき、いや、北村委員もだけでも、公園に行くというふうなこと、高齢者と子供との触れ合いとか、そういったことも含めてやっぱりここですばつと……。

○北村教育委員長職務代行者 一石を投じると。

○岡本教育長 もう一歩ぱつと。ただ、ここにいる子供たちが本当に自由にどこでも行ける。放課後児童クラブも、先ほどあったけども、輸送の問題もあるんです、結局。

○田中教育委員長 ああ、それも絡めたらええ。

○岡本教育長 うん、そういうこともある。ある町では、この間、教育長会へ行ったら、もうタクシーを用意したり何したりするのがごっつい大変だと、1カ所に集める

の。あっちからもこっちからもタクシーで、町が。放課後児童クラブにですよ。その調整が大変ですというふうなこともあったりね。だからそういうことをずっと見たら、全体的にこれはもう波及効果っていうんか、みんなが喜ぶ。それで誰も悪い、何しよるんだということはもうほとんどないことをやっぱりこの際。

○岡本町長 決断せということか。それはいつでも。

○岡本教育長 もはやしているわって言いなると思うけど。

○北村教育委員長職務代行者 いや、お金に換算するからだめなんですよ。だから経費、経費だけの問題ですから、乗せるだけはもう別に乗せたらいいわけですから。

○田中教育委員長 町長、脱線ついでの話として今の話、データ的に見たら15歳の話もされたでしょう。温泉地域と浜坂地域とで15歳でこの町から他へ出ていくのはどっちが多いかっていうと、温泉地域が多いでしょう。

○岡本町長 いや、知りませんな、それは。

○田中教育委員長 温泉地域のほうが多いんですわ。今はデータ的にどうですか。

○中井委員 いや、そんなことないでしょう、浜坂地域のほうが多いと思うけど。15歳でしょう。

○田中教育委員長 だから夢中から出ていく者の数がかなり、課長は掌握してませんか。

○西村こども教育課長 城北に夢中から行く数は確かに。

○田中教育委員長 多いはず。

○中井委員 ことしバスになってからでしょう。

○田中教育委員長 だから、その辺から考えてみてもやっぱり何も、はっきり言って僕は春来におるのでようわかるんですけど、強いてね、じゃあ春来におったらもつと来よるとかいったら、別にじゃあ浜坂まで来んでも八鹿に行ったほうがいいんじゃないかとか、簡単に言ってそういう論になるんです。だから、現に春来から村岡高校にスキーができるからそっちへ私行くんだと行って行った子もおるぐらい。それはそれでいいとしても、八田から八鹿まで通つとる高校生もいますよ。中でも一番根源は、少なくとも誰もそうじゃなくて自分の町にある高校で自分の同じ同世代の者と自分の学びで夢がかなうなら行きたいのは普通ですわ。だから、そういう高校の学習レベルにも何とか近づけようとしたり、そしたら奥の子はそうだということはやっぱり通学のことにはありますわ。僕らみたいに自転車で走って行ってこいとか下宿せえというよ

うなことをようせんのだから。だから、その辺のところを町として、高校生も含めて小学生も含めてお年寄りも含めて本当に交流できる、へえ、あの町はこんななのかという、図書館に行こうと思えば、図書だってあんなのやってもらったらごっついすごいと思う。じゃあ仮に、じゃああのバスに乗っておじいちゃん、じゃあちょっと一緒に行こうやとか、孫連れて図書館どこにある、おまえ近くごろ行ってないだろう、よし、じいちゃん、一緒に行こうやとか、ついでに買い物して帰ろうやとかね。それこそ公園の話も含めて何かそんな、へえ、あの町は外からも人を呼びたいけども、中にいる人間がより豊かに人間関係、コミュニティーやってるなみたいな何かを、何か欲しいっていう、教育的に。それは本当に思うんです。どうすればいいかは私はまだわからんですけど。

○岡本町長　そもそもコミュニティーバスを走らせている、コミュニティーのバスのそもそもは、そういう本当にコミュニティーを維持するためのバスだから。だから、一定あれば1億二、三千万かかるとるでしょうや、あの運行費の。補助金が何ぼぐらい出とるかというのは5,000万ぐらい出とんか、半分ぐらいは。そこに別に、例えば高校生から何ぼ、何百万あるか知らんけど、それが外れたとしても運行は運行で…その経済性の問題じゃないのよ。将来の町をどう、将来のためにどうして町の若者を育てるのかの話だと思っています。

○北村教育委員長職務代行者　だから、メリットはめっちゃあると思うんです、デメリットは町にデメリットだけじゃなくて。あと、さっき委員長の言われたゆめっこで1つだったのが分かれて、それはなくなると思うんですよね、結果的にそのことがクリアできれば。ですので部活の交流もできるし。

○岡本町長　だから春来から乗って300円、乗ってどこに行かあと300円という、そういう設定したのはコミュニティー本来のバスのあり方でそうしとるわけで。そうしているわけでどうってことあらへん。

○北村教育委員長職務代行者　民間ではそんなことしませんけど、赤字になって潰れちゃいますから。

○岡本教育長　だから額的にいったらごっついことにはならんと思うな。

○岡本町長　なにがなるだいな。

○西村こども教育課長　今、運賃収入が1,700万か800万、全体の。

○岡本町長　全体で。

- 西村こども教育課長 全体で。
- 岡本町長 大したことあれへん。
- 西村こども教育課長 保育料は6,000万ですけど。
- 田中教育委員長 町長、課長もやりますよ、きっと。バスに乗って図書館へ行こう  
とってキャッチフレーズでやりだしますよ。
- 岡本教育長 だからばあんと、やることはやりましよういな。
- 岡本町長 うん。いや、300円で図書館に行けるだったら、往復じゃないな。片  
道300円使って。
- 北村教育委員長職務代行者 片道ですね、マックス300円。
- 岡本教育長 いやいや、300円で今は行けるんだけど、今はですよ。
- 中井委員 18歳以下無料にしまえば、別にひとり150円入らんようになる  
だけの話で。
- 北村教育委員長職務代行者 そうそう、そうすると……。
- 岡本町長 大したことあらへん。
- 中井委員 決まりということで。
- 岡本教育長 子供連れの高齢者もただって、例えば、ああ、もうこうなったらみんな  
なただだわというようにね。
- 北村教育委員長職務代行者 みんなただにしましよう。本当のコミュニティーバス  
になりますね。
- 田中教育委員長 それこそ住民の足と。
- 小南委員 みんなただ。
- 岡本教育長 足の悪い人なんか利用者が多たって言っとったかな。
- 田中委員長 もういっぱい乗っていますよ。
- 岡本教育長 そういうことをしてみたいですよ。ちょっとないですよ。
- 小南委員 何か小学生もよく高齢者の施設にデイサービスなんかに来てくれるんで  
すけど、その送迎がなくてちょっとポシャってしまう場合があるので、すごく学校の  
先生も喜ばれると思います。
- 北村教育委員長職務代行者 メリットはむちゃくちゃあると思うんで。デメリット  
はおたくの1,600万。だから、スクールバスは今出ましたからそれもいいんです  
けども、スクールの時間に合わせればスクールバスの対応も要らなくなる、経費も要

らなくなるようなことにも、やっぱりシフトを変えればバスを考えたりだとかというのも、別段スクールバスだからというくくりがあって学生しか乗せない。

○岡本町長 それは今はないね。

○西村こども教育課長 混乗していますね。

○北村教育委員長職務代行者 そうですね。それはまあ知っていますから。

○岡本町長 できるだけ有効に使うように。

○北村教育委員長職務代行者 有効にね。

○岡本町長 可能とすれば保育園のバスぐらいなことだけど、これはちょっと無理があるかな。

○北村教育委員長職務代行者 さあさあそれはね。座席の大きさとか、その辺はありますからね。それは無理かと思えますけど。1人で来いやって言えれませんしね、そんなことね。それはいいと思います。

○西村こども教育課長 300円というのも社会実験の一環として、今まで高かったものを300円とすればふえるのかと、乗車する人が。そういう意味での300円だったんで、それをやった成果としてそれを評価して、例えばやっぱりそれを400円にするとか、いろんな方策はすべき300円だと思うんですけど。

○岡本町長 まあなら弾力性がある。

○西村こども教育課長 弾力性がある。何もそれが未来永劫300円という意味でしたわけじゃないと思うんです。

○岡本町長 それだったらもう150円にして、往復。往復300円にすれば。

○西村こども教育課長 ただ、収支はやっぱり、でも意識はすべきだと思うんですね。

○田中教育委員長 プレミアつけましょうか。お年寄りと子供と手をつないで乗ったら50円安くなるとか。

○北村教育委員長職務代行者 それだったらただでいいんじゃないですか。

○田中委員長 ねえ、そういう楽しいのをしたいわ。図書館や本や借りる、その人は50円引きですよとか、楽しいんじゃないですか。

○西村こども教育課長 安うしてもふえりゃいいけどそうじゃなかった。

○岡本町長 高うしてももうけれらへんし。

○岡本教育長 見てみない、ほとんどの時間帯がほとんど乗っとらへん。

○中井委員 ただし、交通弱者に配慮してそこは確保してあげないけんということで

ただでいいんじゃないかって。

○岡本教育長 そうそう、だからええと思う。

○北村教育委員長職務代行者 僻地にタクシー代出しとるよりよほどいいです。

○岡本町長 しっかりした御意見をいただきましたので。

○田中教育委員長 何か話がそれてるような。

○岡本教育長 まあまあ教育のほうは。

○岡本町長 ほかありませんか。

○岡本教育長 こういうふうなことについて協議したとか。

○中井委員 ちょっと参考までに、目標値っていう、これクリアするとどういう数字が出てくるのか。目標があったでしょう、これ。

○西村こども教育課長 目標があって、ある程度達成したら交付金にそれが評価されるっていうことになっております。

○中井委員 交付金までで、例えば町の10年後の人口だとかいう想定はないわけだ。

○西村こども教育課長 いや、あります、ちゃんと。人口ビジョンというのがあって、あくまでこういうものを達成することで、人口ビジョンがここまで落ちるのがここまですていうのが人口ビジョンっていうか。

○中井委員 素人にもわかりやすいように、例えば平成何年の人口が何ぼぐらいの想定になりますか。

○西村こども教育課長 ああ、ありますよ、それもちゃんと。

○中井委員 おぼろげながらの記憶でもいいんですけど、期待が持てる数字なのかどうかっていう話だけなんです。

○岡本教育長 平成50年ぐらいで7,000人ぐらいでしたかな。

○西村こども教育課長 平成72年がこのままいくと5,686人、それを7,248人。

○中井委員 7,000人。

○岡本教育長 それでもすると。

○西村こども教育課長 それぐらいの。

○中井委員 数字が、たいして違わん数字だなと思ったけど。

○北村教育委員長職務代行者 生きとらん話。

○岡本町長 わしら、生きとらあへん。

○中井委員 生きとらあへんだが、余りにも何か、1万はとつくに切つとる。

○西村こども教育課長 それで子供の減少に歯どめをかけるって言いながら、今80のを100にするというようなもんじゃないですよ。60までのを80のところでぐらいの数字なんですよ。

○中井委員 きょう見させてもらったら教育委員会に絡むところだけなんで、おる人を対象に子育て支援だし、おる人が減つとる、減るところを止めないとどうにもならんっていう気がして。

○西村こども教育課長 別のところでその20を入れるとかね、そういうのはあつて…。

○岡本町長 わからへんがな、この数字だけじゃ。

○中井委員 IでもJでもUでもええんでそこの数をふやさんとね。

○西村こども教育課長 ですんで、出産もアンケートとつたら3人目が欲しいっていう方が40%ぐらいあつて2人も30%ぐらいあるんで、1人が産む人数っていうのは十分、そんな1.8とかではなく2を超えるぐらいの数字にはなるんですけど、うちの場合は産む人自体が少ないんで減ってくるという。

○北村教育委員長職務代行者 分母の中ですわね。

○中井委員 こっちに住んどる人だったら、1人でなんて考えている人ほとんどおらんのでね。

○西村こども教育課長 そんなことないし。実際は2人、3人がほとんどみたいな気がするんで。

○岡本町長 4人というもんがおるで。よし、よう頑張ったな。

○田中教育委員長 話ちょっとそれるんですが、最後に、最後というよりも1つどうしてもお願いして、お願いっていうか、聞いておいていただきたいことが私はあるんです。特に子育てのことがこう出てるわけですけども、子育てのとは環境とか支援とかいう言葉にあるんですけども、実は教育という立場からいうと、それらの外的要因はもちろんですけども、一番子育てとかいうことも含めて教育の根源は人なんです。人づくりなんです。それを支える人、教える人、そういう意味では本町の教育は小・中学校、教育委員会でもいつも言っているんですけども、いろんな子供たちがいることに対して人的な配置を、本当に予算的なことが厳しい中でもしていただいている、これは本当にありがたいっていつも僕言っているんです。それで、その点では本当に



共通して、幼稚園のこともあるんですけどね、実は人なんですけども、数のことも大事なんですけども、実は質が問題なんです、質。特に幼稚園教育とかそういうことになってくると、非常に質的なことの、質なんて言葉を使うとなんですが、指導力の問題、どう支える、そのことについて課題がかなりやっぱり出てきているのは現状です。そういうことの中でやはり、本題からは外れますけども、結論で言うともっともっと先生たちが勉強する研修の機会をやっぱり持っていかなあかんのと違うかと。建物やこども園になったりして形は変わったけど、実は中身が追っついてない。こういう現実があると思うんです。そうしないと狙っている子育ての本質ができない。私はそんなふうと思うんです。だから、本題ではありませんけども、この陰には人づくりのことがあって、実はその辺にも教育委員会が、これから教育長を初めやっていくと思いますけど、研修して本当に教師が学んでいって、また教師といえどもそこにかかわる人たちが学んでいって本質を知って、人づくりや子育ての問題にかかわるっていうようなことにやっぱり向かっていくべきだなと。できてないという意味じゃなくて、数はありがたい、中身だというふうに私は今思っています。要らんことを言いましたけどね。

○岡本町長 いえいえ、いいです。

○田中教育委員長 何か私要らんことを言っていたら訂正してください。

○岡本教育長 いえいえ。

○田中教育委員長 数は本当ありがたいっていつも言っていてね。

○岡本町長 やっぱりしっかり人をつくって、次の時代をつくっていく人をつくるということの僕は重さというか、それを意識的にやるということは非常に大事なことで、特にうちの町からすればやっぱり幼児教育を含めて、今言われたことをやっぱり目的意識的に系統立ててやっていくということが、特にこの間、身にしみて感じております。ですから、機会をできるだけ捉えて系統立てて、教育委員会のほうでそういう予算づけなり予算要求なりしていただきたいというふうに思っておりますので、ぜひともそういう対応をお願いしたいと、私のほうからは。

ほかはございませんか。えらい3時ということでごっつい延びてしまいましたけども、申しわけございませんでした。

それでは、教育長のほうから閉会の言葉をひとつ。

○岡本教育長 済みませんね、本当にいつもの教育委員会のように、町長の主催とい

うことでこうしてせつかくこういう場の中に教育委員が同席して教育、まちづくり、人づくりのお話が十分できたなど大変うれしく思います。町長が最後に言われました、まさにそのとおりであります、教育委員会がこの町の教育についてしっかり主体性を持って町長と本当にスクラム組んで、組まなければやれませんし、最後に大いにそういう提言なり、皆さんに向けてもそういうことを出してほしいと、生かしてほしいと、ということをお願いいたしましたので、本当に心強く思っております。

今後ともまたこの総合教育会議を初めとして本当に町長と良い協力関係、また町長自身も、いろんな現場にわたりますから非常に苦しい部分を持ちながらも、教育については町の一番基盤だと、その根元のところは子育てだということをお願いしております。本当に心強く思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます、きょうの第2回の総合教育会議、これで閉じたいと思います。本当に御苦労さまでした。ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

閉会 午後4時30分

\*\*\*\*\*

会議の経過について、相違ないことを証しここに署名する。

平成 年 月 日

署名 新温泉町長

署名 新温泉町教育委員長